

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(サルモネラ)

年次一号	※番号	国	出典	詳細
2006-1	2	EU	EFSA	2004年のEU域内における人畜共通感染症の病原体及び抗菌薬耐性の傾向と感染源に関するEFSAの報告書 2004年、EU 25カ国の人畜共通感染症のアウトブレイクは6,860件、患者は42,447人で、サルモネラ症とカンピロバクター症が最も多かった。サルモネラ症の報告患者は192,703人、100,000人当たり42.2人で、2003年より22%増加した。感染源は鶏肉と豚肉が多い。カンピロバクター症の報告患者は183,961人、100,000人当たり47.6人で、2003年より32%増加した。主な感染源は鶏肉で、とさつ時には鶏肉の80%以上がカンピロバクター菌を保有していた。 リステリア症の報告患者は1,267人、100,000人当たり0.3人で、2003年とほぼ同じであった。VTEC感染症の報告患者は17カ国で4,143人、100,000人当たり1.3人で増加した。Yersinia症の報告患者は10,000人以上であった。ヒト結核症の報告患者はデータが不完全で推測が難しいが、報告されたのは83人であった。 死亡者はリステリア症が最も多く、107人であった。 一般に、寄生性感染患者は病原菌より少なく、トリヒナ症患者は300～400人、エキノコックス症もほぼ同数、トキソプラズマ症は約2,000人であった。狂犬病は2人であったが両者ともEU外での感染であった。 http://www.efsa.eu.int/science/monitoring_zoonoses/reports/1277_en.html
2006-4	2	アイルランド	EPI-Insight	アイルランドのサルモネラ、2004年 Salmonella in Ireland, 2004 アイルランドでは2004年、S. enterica 感染患者419人が報告された。 最も多かった血清型はS. Enteritidis (n=172)で、以下S. Typhimurium (n=125)、S. Bredeney (n=11)、S. Virchow (n=10)、S. Kottbus (8)、S. Kentucky (7)の順であった。S. Typhimuriumの最も多いファージタイプはDT104 (38%)、次がDT104b (18%)で、2003年と逆転した。S. Enteritidisのファージタイプは、以前最も多かったPT4に替わり、PT1が優勢となった。 2004年の患者419人のうち75人(18%)が外国旅行由来であった。 S. Typhimuriumのアウトブレイクが8件発生した。レストランで起こった1件では患者10人で、このうち9人からS. Typhimurium DT49が確認された。感染源はティラミスであった。 同国では、2004年のサルモネラ症患者は100,000人当たり10.6人で、2003年の11.5人に比べて減少したが、依然としてSalmonella enteritidisは胃腸疾患の重要な原因である。 http://www.ndsc.ie/EPI-Insight/Volume72006/File1450.en.PDF
2003-11	1	アメリカ	FsNet	イリノイにおける大規模サルモネラ食中毒 August 9, 2003 イリノイ州レイク郡のレストランで2003年6月に発生したサルモネラ食中毒事例において、確認された患者が163人に達したと発表された。 ProMED-mail post http://131.104.232.9/fsnet/2003/8-2003/fsnet_august_11.htm#SALMONELLOSIS
2003-11	1	アメリカ	FsNet	刑務所における大規模サルモネラ食中毒 テキサス州立刑務所の服役者うち600名以上が、豆サラダを食べた翌日サルモネラに感染した症状を呈した。服役者用厨房でよく洗浄されていない刑務所内生産の鶏卵を扱ったことが原因か。 Aug. 7/03 AP http://131.104.232.9/fsnet/2003/8-2003/fsnet_august_7-3.htm#SALMONELLA
2003-19	2	アメリカ	Promed	回収情報—アルファルファの若芽からサルモネラ検出(スプラウト)(アメリカ) November 29, 2003 ワシントン州の農場(Harmony Farms)が栽培したアルファルファスプラウトについて、サルモネラによる食中毒と関連が認められたため、ワシントン、オレゴン、アラバカ州の小売店から回収するよう命じた。当該スプラウトを食べた8人のオレゴン州住民がサルモネラ食中毒を発症しており、ワシントン州の住民も同じ原因による食中毒が疑われている。当該農場の産物によるサルモネラ食中毒は今年に入り2件目で、2003年の3月には、やはりオレゴン州とワシントン州で、13人がスプラウトを食べて食中毒を起こしている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:629407488561654819::NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,23607
2003-8	2	アメリカ	CDC	CDC MMWR 2002-2003年に起きた、未殺菌乳に関連したSalmonella Typhimurium感染 http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5226a3.htm 2002年12月10日、オハイオ州衛生局はSalmonella Typhimurium感染によって子ども2人が入院したことを探知。初動調査により地域の乳製品レストランで購入した未殺菌乳が原因と疑われた。この報告書は、それ以降の調査結果をまとめたものである。 当該レストランは、牧場やふれあい動物園に併設したものであり、施設全体の従業員数は211人、年間訪問者数は135万人である。翌年の2月18日までに、オハイオ州衛生局は60の患者由来株が同一のPFGEパターンを持ち、同パターンはイリノイ、インディアナ、デネシー州からも得られていることを確認。CDCのバブリック情報Epidemic Information Exchange (Epi-X)も利用しつつ、患者探索を行ったところ、条件に一致する62人が見つかった。ケースコントロールスタディにより、当該未殺菌乳の消費が原因と推定された(odds ratio [OR] = 45.1; 95% confidence interval [CI] = 8.8-311.9)。 同一PFGEパターンのSTは同施設製品の脱脂粉乳やバターからも検出された。搾乳やアイスクリーム製造に携わる4人の無症状従業員も発見された。2003年1月13日、当局は当該施設に対し、未殺菌乳製品の販売を禁止した。 アメリカでは年間140万人がサルモネラ症に罹患し580人の死者が発生していると推定される。この事件とその後の経緯の結果、オハイオ州では未殺菌乳を売る営業者はなくなった。アメリカでは27州が未殺菌乳の販売を認めている。消費者教育も必要であり、牛乳の販売に関する規制も強化されるべきである、と報告書は結論している。
2004-12	1	アメリカ	FDA	サルモネラによるアルファルファ回収 June 3, 2004 オレゴン州とワシントン州で、現在までにSalmonella Bovismorbificans感染患者12人が報告されている。生のアルファルファが原因と考えられ、Sprouters Northwest, Inc.がアルファルファを回収している。FDAはこれまでに、生のスプラウトの危険性について注意を繰り返している。 http://www.fda.gov/bbs/topics/news/2004/NEW01075.html
2004-12	1	アメリカ	CDC	生アーモンドによるSalmonella Serotype Enteritidis感染症のアウトブレイク—2003～2004年の米国およびカナダ 2004年2月～4月、オレゴン州でSalmonella enterica serotype Enteritidis(SE)感染患者5人が確認され、米国12州とカナダ1州で2003年9月以降の合計患者数が29人となった。感染源は生アーモンドであり、5月21日現在、約1300万ポンドが回収された。6月2日現在、患者29人のXbaIおよびBlnIによるPFGEパターンが一致することが確認された。症状開始は2003年9月～2004年4月、年齢は11カ月～91歳(中央値は40歳)、女性が17人(59%)であった。入院患者は7人、死亡者はない。現在までのところ、分離株9株の型がいずれも9cという稀な型であることが明らかになっている。患者の家庭から回収した生アーモンドとParamount社で採取したサンプルを検査したところ、結果はサルモネラ陰性であった。しかし、同社で採取した環境サンプル、穀むき機2台からの3サンプルからサルモネラが分離された。現在、血清型とPFGE分析を行っている。 http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm53d04a1.htm
2004-15	2	アメリカ	Promed	トマトによるサルモネラ症(米国)(FDA警告情報ならびに論文紹介に関連情報) July 15, 16, 19, 2004 ペンシルバニア州で50人がサルモネラ症を発症し、原因としてコンビニエンスストアSheetzで販売されたサンディッチのレタスとローマ・トマトが疑われた。ローマ・トマトは、2年前にフロリダで140人のサルモネラ症の原因となったことがある。 その後、ペンシルバニア、メリーランド、ウエストバージニアでサルモネラ症患者が少なくとも110人に増えた。コンビニエンスストアSheetzのレタス、トマト、チーズおよびマヨネーズ241株体の検査の結果、トマトがサルモネラ陽性であったため、次に汚染経路の調査に進むことになった。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:4475582228062131521::NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26079 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12653165160816238644::NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26052 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:473653682706266141::NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26027

2004-15	1	アメリカ	FDA	ペンシルバニア州と中部大西洋州のサルモネラアウトブレイクに警告 (ProMED-Mail, 論文紹介に関連情報) July 16, 2004 7月2日～7月9日にペンシルバニア、メリーランド、ウエストバージニアでサルモネラ症患者57人が発生したため、FDAはSheets Gas Stationの食品が原因である可能性があると、警告を発した。 http://www.fda.gov/bbs/topics/news/2004/NEW01090.html
2004-16	2	アメリカ	Promed	トマトによるサルモネラアウトブレイク関連記事 July 31, 2004 ペンシルバニア、ウエストバージニア、オハイオ、メリーランド、バージニアでの5州で感染者数は365人となり、調査の結果、今回のサルモネラ症の原因となった2株が見つかった。362人はJaviana株によるサルモネラ症で、全員がSheetsの食品を摂取していた。また、ローマトマトの未開封袋にAnatum株が検出され、3人がこれと遺伝的に一致するAnatum株によるサルモネラ症を発症していた。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:13882789863187659325:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26218 July 27, 2004 ペンシルバニア州のサルモネラ症患者数が7月24日から50人増え、260人になったと26日に発表された。ウエストバージニア、メリーランド、オハイオ州の患者数は73人である。感染源としてトマトが注目され、感染経路は不明であるがローマトマトスライスがサルモネラ陽性であった。先週Sheetsなどの食品サンプル235検体の検査が終了したが、アウトブレイクの原因となった株は特定できなかった。7月26日、さらに15検体の検査が終了したが、サルモネラの証拠は見つからなかった。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:14498179006180343287:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26179 July 24, 2004 トマトとレタスの検査、株は今回のアウトブレイクの原因とは異なるが、サルモネラ陽性となったのは未開封のトマトのみであった。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:8440173901791513617:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26146 July 21, 2004 オハイオ州にも広がり、患者13人が報告された。ペンシルバニアの患者と同じ株 Javiana が確認されたのは13人中2人であった。7月19日、トマトにサルモネラ陽性結果が出たが、患者に確認されたものとは株が異なっていた。7月20日現在メリーランド州の患者は20人で、うち13人がJaviana株の可能性例または確認例とされた。7月20日現在メリーランド州の患者は20人で、うち13人がJaviana株の可能性例または確認例とされた。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:14498179006180343287:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26114
2004-17	2	アメリカ	Promed	トマトによるサルモネラアウトブレイク関連記事 August 11, 2004 汚染ローマトマトは、フロリダ産とみられるが、サウスカロライナも可能性があり、調査が続行されている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:3992881682755271895:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26349 August 9, 2004 5州で416人の感染者 (ペンシルバニア州330人、オハイオ、ウエストバージニア、メリーランドおよびバージニア州で計86人)を出したサルモネラ症の原因となった株は4株であった。全株がローマトマトから検出された。Salmonella Javianaに感染したのは、ペンシルバニアの330人のうち324人であった。Salmonella Anatumが検出されたのは、食品260以上のサンプルのうち1つのみであり、4人が感染し、1人が調査中である。さらに、Thompson株およびMuenchen株が検出された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:3992881682755271895:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26315
2004-17	1	アメリカ	FsNet	サルモネラ症 (米国) August 17, 2004 Knight-Ridder Tribune ニューハンプシャー州のサルモネラ症患者4人と疑い患者5人全員がSubwayの食品を食べていたことがわかった。Subwayの食品の取り扱いに問題はなく、サンドイッチ用のレタスが疑われている。 http://131.104.74.73:96/fsnet/2004/8-2004/fsnet_aug_18.htm#story0
2004-18	1	アメリカ	Promed	原因多様の胃腸疾患 続報 (米国) Gastroenteritis, Multiple Causes - USA (Ohio) (05) (06) August 27, 2004 August 26, 2004 Lake Erie's South Bass Islandで1,020人の患者が出たアウトブレイクに関し、数週間前の検査で2つの井戸の水がE. coli陽性であったことがわかったが、最近の検査では見つからず、E. coli陽性の患者はいない。さらに4つの公設井戸と少数の私設井戸がE. coli陽性であったが、汚染水が原因であるかどうかは分かっていない。19人の便検査の結果、14人がカンピロバクター、3人がノロウイルス、1人がサルモネラ、1人がジワルチア陽性であった。症状を訴えている者の95%が客であり、このうち84%が下痢、53%が嘔吐の症状を呈し、4%が受診している。現在、井戸の汚染原因も調査中である。8月26日には、オタワが患者1,020人を発表した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:14134781875047598324:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26527 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:12564229851204200858:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26512
2004-18	1	アメリカ	FsNet	サルモネラ症 (米国) August 17, 2004 Knight-Ridder Tribune ニューハンプシャー州のサルモネラ症患者4人と疑い患者5人全員がSubwayの食品を食べていたことがわかった。Subwayの食品の取り扱いに問題はなく、サンドイッチ用のレタスが疑われている。 http://131.104.74.73:96/fsnet/2004/8-2004/fsnet_aug_18.htm#story0
2004-22	1	アメリカ	J Food Prot	生乳摂取に関連したSalmonella enterica Serotype Typhimuriumによる複数の州にまたがるアウトブレイク調査—2003年オハイオ州 A Multistate Outbreak of Salmonella enterica Serotype Typhimurium Infection Linked to Raw Milk Consumption - Ohio, 2003 J Food Prot. 2004 Oct;67(10):2165- Jacek Mazurek, Ellen Salehi, Dennis Propes, Jo Holt, Tammy Bannerman, Lisa M. Nicholson, Mark Bundesen, Rosemary Duffy, Ronald L. Moolenaar 2002年11月30日～2003年2月18日にSalmonella enterica Serotype Typhimurium PFGEパターン的一致が確認された62人の患者 (ケース)と56人の対照者の間でケースコントロールスタディを行ったところ、生乳摂取が食中毒の原因であると考えられた。
2004-3	1	アメリカ	Promed	USDAが牛肉によるサルモネラ症発生の警告 January 31, 2004 USDAは、米国北東部諸州で発生しているサルモネラ症の原因として生牛肉ならびに牛ひき肉製品が疑われていることから、それらに対する警告を発した。コネティカット、メーン、マサチューセッツ、ニューハンプシャー、ニューヨークおよびバーモントで少なくとも37人が発症した。汚染源に関する記述はない。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:8496943824686973679:NO:F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24320
2003-14	2	イギリス	CDR Weekly	Salmonella Enteritidis phage type 14bの英国内発生—続報 英国におけるSalmonella Enteritidisによる食中毒件数は2002と比べて極端に多い状況であり、特に2003年27週 (7月6日の週)は昨年度比219% (2003年/2002年:338件/119件)である。 http://www.hpa.org.uk/cdr/archive03/news/news3803.htm#salm
2003-8	2	イギリス	Health Protection Agency	食品由来疾病病原体検出件数2003年5月、6月 EnglandとWalesにおけるSalmonellaの検出数は、5月786件、6月1207件。Salmonellaファージタイプ、その他の細菌、ウイルスの検出状況は下記サイトから表を参照可。 http://www.phls.org.uk/publications/cdr/pages/enteric.html#general
2004-17	1	イギリス	Eurosurveillance	イングランド北東部Durhamでサルモネラ症アウトブレイク Durham州で、Salmonella Typhimurium ファージタイプ (DT) 104感染のアウトブレイクが発生した。現在までに患者69人が確認され、14人に感染が疑われている。感染源を調査中で、食肉製品などを販売する食品店が疑われている。北アイルランドで最近発生したSalmonella Typhimurium DT104アウトブレイクの株とは、抗菌薬耐性パターンは似ているが、プラスミドのプロファイルは異なっている。(CDR Weekly参照) http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040812.asp#2
2004-17	1	イギリス	Health Protection Agency	北アイルランドDownpatrickでのSalmonella Typhimurium DT 104アウトブレイク Outbreak of Salmonella Typhimurium DT 104 in Downpatrick, Northern Ireland 7月6～30日、下痢と嘔吐を訴える患者167人が報告され、このうち113人がサルモネラ陽性であり、ストレプトマイシン、スルホンアミドおよびスペクチノマイシン耐性Salmonella Typhimurium DT 104が確認された。あるレストランのチキンバー (揚げ物)とマヨネーズに同じ株が見つかり、感染源として確認された。 http://www.hpa.org.uk/cdr/archive04/news/news3204.htm

2004-17	1	イギリス	Health Protection Agency	北アイルランドDownpatrickでのSalmonella Typhimurium DT 104アウトブレイク Outbreak of Salmonella Typhimurium DT 104 in Downpatrick, Northern Ireland 7月6～30日、下痢と嘔吐を訴える患者167人が報告され、このうち113人がサルモネラ陽性であり、ストレプトマイシン、スルホンアミドおよびスペクトノマイシン耐性Salmonella Typhimurium DT 104が確認された。あるレストランのチキンパコラ(揚げ物)とマヨネーズに同じ株が見つかり、感染源として確認された。 http://www.hpa.org.uk/cdr/archive04/news/news3204.htm
2004-19	1	イギリス	Promed	サルモネラ症(英国) Ulsterでは7月にDownpatrick地域で約100人がサルモネラ症を発症したが、この8日間に今度はBelfast地域などから13人のサルモネラ症患者が出た。
2004-22	3	イギリス	Eurosurveillance	2000～2004年のイングランドおよびウェールズにおけるSalmonella Enteritidis 非PT4感染報告 Volume 8 Issue 42, 14 October 2004 イングランドおよびウェールズでは、近年Salmonella Enteritidis PT4感染が急速に減少した(1998年は10,056人、2003年は2,693人)。一方、2000年以降、SE非PT4感染はほぼ2倍に増加し(3,548人から7,065人)、このうちPT1とPT14bが大部分を占めている。PT1の年間発生は917人から1,966人と102%の増加、PT14bは178人から923人と419%増加した。2004年上半期の暫定データでは、2003年同時期に比べ、この2種類のPTがさらに増加している(それぞれ14%、86%)。イングランドとウェールズで、2000年以降のPT1とPT14b感染患者は約20,000人である。1998年～2001年、非PT4感染のアウトブレイクは49件、2002年～2003年は48件、2004年は現在までのところ26件である。調査により、スペインから輸入された卵が主要な感染源と考えられた。英国保健保護局HPAは、2002年10月～2004年9月、ケータリング店79店から殺処分卵11,718個を採集し、検査を行った。サルモネラ属菌は、スペイン産卵の5.6%、英国の非Lion-Quality卵の1.1%に検出された。Lion Quality卵からは、検出されなかった(Lion Quality卵とは、SEワクチンを受けたことが証明されている英国の鶏の卵である)。分子タイピングでは、一部のスペイン産卵からの分離株が、患者から分離されたものと区別がつかなかった。 2003年のSE発生報告36件のPTは、PT4(20件;56%)、PT6(7件;19%)およびPT8a(5件;14%)がほとんどを占めた。PT1は1件、PT14bはなかった。英国では2000年以降スペイン産の卵の輸入が増加し、現在最大の輸入国となっている。英国食品基準庁FSAがケータリング業者にガイダンスを発行しているが、非PT4の発生は減少をみていない。オランダでもスペイン産の卵の輸入が増加した2003年、アウトブレイクがあり、スペインは改善のための活動計画を作成した。HPAは、2004年8月、アウトブレイクコントロールチーム(OCT)を招集し、活動計画を作成した。ポジションペーパーが以下のアドレスで発表されている。 http://www.hpa.org.uk/infections/topics_az/salmonella/se_update.html http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/041014.asp#2
2004-25	3	イギリス	Health Protection Agency	DEFRAによる2003年の人畜共通伝染病報告 英国環境・食糧・農村地域省Department for Environment, Food and Rural Affairs (DEFRA)が2003年の英国の人畜共通伝染病年次報告、"Zoonoses Report UK 2003"を発行した。これは、人畜共通伝染病に関する情報をまとめたもので、人間、食品および動物の状況に関する情報を提供し、食品由来ならびに水由来人畜共通伝染病、動物の報告人畜共通伝染病、その他の人畜共通伝染病に重点が置かれている。 Campylobacter感染症は、1998年の65,000人が2003年には49,050人と引き続き減少していた。市中での実際の感染率とカンピロバクターサーベイランスへの報告数の割合は約8:1と推測され、このことから2003年はCampylobacter感染患者が約400,000人であったと考えられた。全体のSalmonella感染患者数は引き続き減少しているが、オランダでもSalmonella Enteritidis非PT4が増加したため、S.Enteritidis全体の患者数がわずかに増加していた。Salmonella Typhimuriumは、イングランドとウェールズでわずかに増加したため、全土での患者数が増加した。 2002～2003年、北アイルランド、イングランドおよびウェールズでベロ毒素産生E.coli (VTEC) O157の患者が少し増加したが、スコットランドでは減少した。2003年、ラボで確認されたVTEC O157感染患者は874人で2002年(852人)よりわずかに増加した。1995年まで、英国全土でVTEC O157感染患者は増加傾向にあったが、その後は毎年約1,000人と変動がない。 Cryptosporidium感染症は、2002年の3,663人から2003年は6,626人と増加したが、2000年の7,083人より少なかった。BSEが確認された英国の牛は、2002年が1,039頭、2003年が47頭と減少し続けている。 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#zoonoses
2005-22	1	イギリス	Health Protection Agency	卵によるSalmonella Enteritidis PT6感染のアウトブレイク、イングランド北西部 2005年4月から7月の間に、北東部のケータリング施設でSalmonella Enteritidis PT6感染の7件のアウトブレイクが起こった。このうち5件は6月と7月に起こり、少なくとも68人が感染し、42人からS. Enteritidis PT6が確認された。 6件では生の殻付き卵からの交差汚染が指摘され、残り1件では患者が喫食した料理すべてに卵が含まれていたが、その関連性は分析的手法により検討されなかった。原因施設でアウトブレイク発生時に使用していた卵の大部分は、イングランドの単一の供給業者からのものでオランダ産であった。アウトブレイク直後に3施設から採集されたサンプルでは、1施設のサラダサンプルからS. Enteritidis PT6が、他の施設の2環境サンプルからサルモネラ属菌が検出され、このうち1サンプルがS. Enteritidis PT6であった。調査時に施設から採集した卵のサンプルからはサルモネラ属菌は検出されなかった。8月8日、さらに供給業者の英国産と非英国産の殻付き卵のサンプル(n=2,120)を検査したところ、消費期限により区別可能な2バッチ(各360個)からS. Enteritidis PT6陽性の卵が見つかった(1つのバッチで18のバブルサンプル中2バブル(1バブルは卵20個からなる)が、もう一つのバッチでは18バブル中3バブルが陽性であった。)卵はオランダの同じ生産業者由来であった。4月と7月のアウトブレイク計3件では、生の殻付き卵と患者からの分離株のプラスミドのプロファイルとPFGEパターンは一致しており、オランダからの卵が感染源であることが示唆された。この結果は、Enternetと食品および飼料に関する早期警戒システム(RASFF)を通じて他のヨーロッパ諸国に報告された。イングランド北東部の散発性患者と他のアウトブレイクからの分離株のPFGEタイピングが行われており、イングランド、ウェールズおよびスコットランドのS. Enteritidis PT6の様々なプラスミドのプロファイルの分布を調査する研究が計画されている。 2004年1月から卵の刻印が義務付けられ(EC規則2001/05)、今回のアウトブレイクでは刻印により生産業者まで正確に追跡することが可能であった。しかし、刻印だけに頼らず、ラベル表示、食品業者に義務づけられている記録の保持(EC規則178/2002)も併せて利用するべきである。 2002年以降の英国のS. Enteritidis感染のアウトブレイクは外国由来の卵が感染源であり、今回がオランダ産卵による初めての連続アウトブレイクである。1989年3月 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#pt6
2005-4	2	イギリス	Emerging Infectious Diseases	英国(イングランドとウェールズ)における食品由来疾病リスク、1998年～2000年 Disease risks from foods, England and Wales, 1998-2000 Emerging Infectious Diseases, Vol. 11, No. 3, March 2005 住民調査や国のサーベイランスシステムによるデータの照合、解析を行うことでイングランドとウェールズにおいて異なる食品の摂取による食品由来疾病のリスクを検討した。1998年～2000年に推定年間1,724,315件の食品由来疾病が発生し、そのうち21,997人が入院、687名が死亡した。健康被害として食品由来カンピロバクター感染が最も大きな影響を与えており(160,788名の初期治療来院と15,918名の入院)、サルモネラ症は最も多くの死者を出していた(203名)。最も重要な感染源は汚染鶏であり(398,420件、リスク(risk)発症=111名/100万食当り、致死率(case-fatality rate):死者数35名/患者10万人、死者数141名)、赤肉(牛、子豚、豚)はリスクが低いにもかかわらず、死亡に大きく関与していた(287,485件、リスク24名/100万食当り、致死率:死者数57名/患者10万人、死者数164名)。食品由来疾病の影響を減少させるためには主に鶏の汚染をコントロールすることに依存すると考えられた。
2005-6	1	イギリス	Promed	サルモネラ症(英国) Salmonellosis, Kebab Shop - UK (London) 11 March 2005 2月中旬、ロンドンのケバブ店の食品により160人以上が食中毒を発症し、60人にサルモネラ症が確認された。詳細を検査中である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?f=2400:1001:930753528755439332:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE:F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000:28320
2005-6	1	イギリス	Health Protection Agency	薬剤耐性Salmonella Virchow PT8感染アウトブレイク 現在、英国保健保護局Health Protection Agency (HPA)は、Greater Manchester州のOldhamとRochdaleにおけるSalmonella Virchow phage type 8感染患者7人の調査を行っている。確認された株は、アンピシリン、フラジリド、ナリジス酸耐性であり、シプロフロキサシン(MIC: 0.5-1.0mg/L/R-type AFuNxCP)感受性が低かった。感染源は、タイから輸入された調理前の鶏肉と考えられた。 2004年9月の北アイルランドで15人がS. Virchow PT8 AFuNxCPに感染したアウトブレイクでは、チキンサンドイッチが感染源であった。タイから輸入された冷凍鶏肉222.5kgを検査した結果、S. Virchow phage type 8 AFuNxCPが確認された。 2004年9月1日～2005年2月28日にイングランドで、S. Virchow phage type 8 AFuNxCPの感染患者35人が報告された。2株でシプロフロキサシン耐性が1mg/L(CpH)以上であった。 北アイルランドとイングランドの患者からS. Virchow PT8 AFuNxCPが14株、イングランドの患者からS. Virchow PT 8 AFuNxCPが2株、北アイルランドの食品サンプルからS. Virchow PT 8 AFuNxCPが1株、冷凍鶏肉サンプルからS. Virchow PT 8 AFuNxCPが1株分離され、すべてのプラスミドプロファイルとPFGEパターンが一貫した。以上の所見、ファージタイピングおよび薬剤耐性パターンから、北アイルランドとイングランドの名アウトブレイクの原因となった株が区別できないことが示された。 英国食品基準庁は港での輸入時の鶏肉の検査の強化を要請した。また、HPAは感染経路についてさらに情報を得るため、最近の全患者の追跡を行う予定である。 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#virchow http://www.hpa.org.uk/cdr/archives/2005/cdr0905.pdf

2005-7	1	イギリス	Eurosurveillance	ロンドン北東部のSalmonella Enteritidisアウトブレイク volume 10 issue 11, 17 March 2005 保健当局は地域の救急病院に2月12日、31名の食中毒患者が報告されたことからこの1アウトブレイクを認知した。現在患者195人が報告され、このうち87人からS. Enteritidis PT 1感染が確認された。さらに12名の患者がSalmonella陽性で現在ファージタイプの確認中である。 78名が食中毒調査の質問票に回答し、そのうち70%が男性、80%が40歳未満であった。94%が2月10日にロンドン北東部のケバブ店の食品を食べ、87%が2月11日に発症、潜伏期間は2/3が12時間未満で、約1/4が一晩以上入院した。60%以上がチリソース、マヨネーズ、サラダ、鶏肉のドネルケバブを食べていた。 従業員のうち3名が11日から体調不良を訴えていたが、そのままだらで働いていた。店員6人のうち2人がS. Enteritidis PT 1陽性であった。 店の食品38検体と患者の家庭の2検体のうち、14検体がS. Enteritidis PT 1陽性であった。卵供給業者の検体は陰性、店の環境検体では20検体のうち1検体がS. Enteritidis PT 1陽性であった。食品8検体がClostridium perfringens毒素陽性で、このうち6検体がS. Enteritidis PT 1陽性であった。11の検便検体のうち1検体からこの両者が検出された。また、衛生上の問題点も多く指摘された。 毎日約300〜400食が提供されていたと推定され、また患者が195人であることから、発病率は約50%と考えられる。英国のS. Enteritidis PT 1患者は毎年約2,000人である。今回のアウトブレイクは、これまでに英国で報告されたS. Enteritidis PT 1アウトブレイクとしては最大である。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050317.asp#2
2006-2	2	イギリス	HPS Weekly Report	2005年のサルモネラ症患者は1,133人で、2004年より10人(0.8%)減少した。Salmonella Enteritidisが14%減少し(2005年が524人、2004年が607人)、特に、PT4は2004年の155人から2005年は116人と20%減少した。PT1は、160人から129人に減少したが、依然として最も多いファージタイプである。Salmonella Typhimurium全体は、2004年とほぼ同じである。DT104が10%増加し(2005年が87人、2004年が79人)、他のファージタイプはやや減少した。他の血清型は2004年より25%増加した。 http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2006/0601.pdf
2003-17	2	オーストラリア	FsNet	食品媒介感染症のサーベイランス(オーストラリア) OzFoodNetのレポートから、2002年は8種の細菌性疾患患者23,434人の報告があった。このうち14,716人がカンピロバクター症、7,917人がサルモネラ症で依然上位を占めている。サルモネラ感染率が最も高いのは0〜4歳男児で、5〜9歳層も増えた。カンピロバクター感染も0〜4歳男児に多い。2002年のリステリア感染は、高齢者、免疫力低下者が97%を占め、最も多いのは60歳以上の男性であった。集団発生の病原菌として最も多いのはサルモネラで(28%)、そのうちTyphimuriumが81%を占めていた。カンピロバクター症の集団発生は1件、ウェルシュ菌によるものは8件であった。 http://131.104.232.9/fsnet/2003/11-2003/fsnet_nov_5-2.htm#story7
2005-22	1	オーストラリア	Promed	ベーカリー製品によるサルモネラ症(オーストラリア) 16 October 2005 ここ数週間に64人のサルモネラ症患者が発生したアウトブレイクがあり、感染源がLauncestonベーカリーの製品であることが確認された。クリームと糖衣の調査に使用する装置からサルモネラ菌が検出された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12591626374274908763::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,30709
2005-3	1	オーストラリア	Promed	サルモネラ症(オーストラリア) January 22, 2005 1月8〜19日にメルボルンのトルコ料理レストラン2件で食事をした400人以上が食中毒を起こし、サルモネラ症である可能性が高いとされている。今のところ、少なくとも135人の食中毒が確認された。確認患者のうち、5人はサルモネラ症で、15人は入院、年齢範囲は3〜73歳である。1月24日にはサルモネラの詳しい型が明らかにになる。 レストランのhummus(ひよこ豆)のディップと茄子のディップからサルモネラ菌が検出された。 現在までに200人以上にインタビューが行われ、確認患者は173人である。少なくとも50人がサルモネラ陽性でレストランのディップと患者1人の便検体から、Salmonella enterica serovar Typhimurium DT 197が分離された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1184034168026497465::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27899
2006-5	1	オーストラリア	Promed	サルモネラ汚染による発芽野菜の回収(オーストラリア) February 21, 2006 オーストラリア西部で、発芽野菜を喫食後に110人がサルモネラ症を発症した。発芽野菜が動物の排泄物によって汚染されていた可能性があると考えられ、2月17日に回収された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:6649879964957685507::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,32098
2006-1	2	オランダ	Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu	オランダの食品由来感染症、2004年 オランダの1年間の食品由来感染症と食中毒の患者は、約300,000人から750,000人である。患者の一部は、感染症の電子通知システムを通じて報告されており、2004年には、アウトブレイク48件を含む、87件の感染症が報告された。食品由来ではサルモネラとノロウイルスが患者の大部分を占め、それぞれ193人と192人で、ついでカンピロバクターが32名であった。一方、食品由来が推測される他の病原体による患者は、赤痢346人、ブルセラ病8人、チフス31人、コレラ1人、A型肝炎447人、パラチフスA型21人とB型17人であった。2004年、食品由来感染と食中毒の患者数は減少したのに対し、赤痢等の原因による報告患者数は横ばいかまたは増加した。このような患者のうち、汚染された食品または水によるものは0〜38%であった。赤痢、A型肝炎、チフスおよびコレラなど食品由来疾患の報告は、夏季に最も多い。赤痢等は外国での感染が重要部分を占め、例えばA型肝炎では39%、チフスとコレラでは100%が外国での感染であった。アウトブレイクの48%が、レストラン等の商業施設で発生した。 http://www.rivm.nl/infectieziektenbulletin/bul1610/art_voedselgerei.html
2004-25	1	カザフスタン	Promed	サルモネラ(カザフスタン) Pavlodarの食中毒患者が132人に達し、うち24人が重症である。全員が胃腸結腸炎と診断されている。サルモネラに汚染された卵を使用したスポンジケーキが感染源である。
2004-14	1	カナダ	Health Canada	生アーモンドによるSalmonella Enteritidis 2003年3月以来、米国で生アーモンドによるSE感染患者32人が確認され、アーモンドの回収が行われた。回収に関する詳細はhttp://www.fda.gov/、アーモンドが原因のサルモネラ症は稀で、生で摂取される場合に限定されており、2001年カナダで初めて報告された。このとき、患者から検出された菌と、未開封食品および農場のサンプルの菌とが一致したが、由来は確認されなかった。カナダの件に関する詳細はHealth Canadaのウェブサイト参照。 http://www.hc-sc.gc.ca/pphb-dgspss/publicat/ccdr-rmcc/02vol28/dr2812ea.html
2005-11	1	カナダ	Promed	サルモネラ症(カナダ) 16 May 2005 オンタリオ州Burlingtonの植物園で母の日のピュッフェの食事をした後、少なくとも81人がサルモネラ症の症状を発症し、4人が入院、少なくとも1人が敗血症を発症した。食品取扱者に症状を呈した者はおらず、食品の調理法が調査されており、原因はサルモネラであると考えられている。ピュッフェ後料理は廃棄されたが、チーズケーキ、ホースラディッシュ、ドレッシングなどは3日間保存されていたため、検査が行われている。また、このイベントに参加した300人中190人に何を食べたかに関する電話調査を行い、原因食品を特定しようとしている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:7226287068471944798::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,28949
2005-26	1	カナダ	Canadian Food Inspection Agency	健康危害警告 サルモネラ汚染の可能性によりアンチョビを回収 Salmonella汚染の可能性があると、JHGブランドの調理済み味付けアンチョビが回収されている。対象製品はタイ産で、Process Date 08 AUG 2005の表示がある200g入りパッケージの、UPC 6 67660 00202 9とUPC 6 67660 00231 9の2種類である。この製品の喫食による患者がこれまでに2人報告されている。 http://www.inspection.gc.ca/english/corpaffr/recarapp/2005/20051209e.shtml
2005-26	1	カナダ	Ministry of Health and Long-Term Care	サルモネラ症アウトブレイク最新情報 2005年10月1日から、オンタリオ州で豆もやし等の喫食によるサルモネラ症患者648人が報告されたが、アウトブレイクは終息した模様であると発表された。11月25日にトロントのもやし生産者に発せられた流通停止令は解除された。 カナダなど様々な国で、多くの種類の発芽野菜による食品由来感染症が起こっている。オンタリオ州Ministry of Health and Long-Term Careは、発芽野菜はリスクがあることが多いと、高齢者、免疫機能低下者、小児などは喫食するべきではなく、健康者は生での喫食は避けてリスクを低減するよう助言している。 Ministry of Health and Long-Term Careは、患者の監視と、今回のアウトブレイクのデータの採集を続ける予定である。また、各地域の保健所や国の機関と協力し、もやしの配給業者に遵守条件と食品の安全性を確保するための適切な方法を通知した。 http://www.health.gov.on.ca/english/media/news_releases/archives/nr_05/nr_121405.html

2003-11	1	スウェーデン	Eurosurveillance	スウェーデンにおけるサルモネラ・ティフィムリウム 14 August 2003 デンマークでと殺解体された豚肉から加工されたシシカバブを原因として、7月始めより、スウェーデンにおいてST DT 108 (or DT 170)による患者が発生。原因の豚肉はスウェーデンの27自治体に流通しており、7月23日までに112人の患者を確認。8月に入ってから患者発生は報告あり。同菌株はデンマークでは多く見られるがスウェーデンでの検出は稀。両国が共同で調査中。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2003/030814.asp#1
2006-1	1	スウェーデン	EPT-aktuellt	サルモネラに汚染されたサラミ EPT-aktuellt, vol 4, nr 51 (22 december 2005) スウェーデンにおいて、イタリア製サラミの喫食により7名(5歳~69歳、男性2名、女性7名)のサルモネラ症患者がSMIに報告された。患者のうち1名がサラミを喫食後発症したことから、当該サラミが原因と疑われ、輸入者の調査及び製品の検査が行われ、検体からSalmonella Infantisが分離された。当該製品の回収も行われ、スウェーデン全体で1200 kgが回収された。Enter-net (the the European monitoring network for intestine infections) を通じ、同様の問題の有無をEC各国に問い合わせたところ、11月に北スウェーデンを訪れたノルウェーの一家族6名がS. Infantis、S. Typhimurium及び両方の血清型に感染していたという報告がノルウェーからあった。 http://www.smittskyddsinstitutet.se/SMItemplates/BigArticle__5980.aspx
2006-4	1	スウェーデン	Eurosurveillance	スウェーデンの患者とイタリアのサラミから分離された稀なファージタイプのSalmonella Typhimurium 2005年12月9日、スウェーデンでサルモネラ症患者4人の検便検体の検査を行ったところ、これまでに同国ではみられなかったnot specifically typeable Salmonella Typhimurium(NST)の株が分離された。1週間後、イタリアから輸入されていたサラミから同じ血清型が見つかった。翌週、さらに同じ血清型の患者が見つかり、患者は15人となり、このうち13人に同じS. Typhimurium NSTが確認された。患者は2~82歳、女性11人、男性4人、発症日は10月9日から12月11日で、少なくとも8人があるブランドのイタリア製サラミを喫食していた。 12月16日、新たな患者が発生し、採集されたサラミのサンプルから、S. Infantisが分離された。また、未開封のサンプルからS. Typhimurium NST汚染が見つかり、サラミの回収が始まった。 Enter-netを通じてEC諸国に問い合わせたところ、ノルウェーからS. Typhimurium NST、S. Infantisまたは両者に感染した家族がいるという情報が得られた。S. Typhimuriumの株は、スウェーデンの株と同様に稀なファージタイプであり、患者は11月にスウェーデンを訪れて問題のサラミを購入していた。 12月29日、スウェーデンは、イタリアのサラミからS. Typhimuriumが分離されたことを食品および飼料に関する早期警戒システム(RASFF)に報告して注意を呼びかけた。 2006年1月上旬、イタリアはEnter-netに、スウェーデンと同じファージタイプのS. Typhimuriumが12人から分離されたことを報告した。イタリアとスウェーデンのPFGEを比較したところ、患者とサラミからの分離株が同じプロファイルであることが判明した。 2006年2月3日、イタリアで加工豚肉から分離されたS. Typhimuriumの2株がアウトブレイクの株と一致した。12月11日以来、新たな患者は出ていない。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2006/060209.asp#3
2005-16	1	スペイン	The Spanish Food Safety Agency	ローストチキンに関連したスペインのサルモネラ症アウトブレイク 2 August 2005 スペイン疫学者ネットワークが確認したところ、ローストチキンを喫食したことによりサルモネラ症のアウトブレイクが起こり、579人が感染した。スペイン食品安全庁(The Spanish Food Safety Agency (AES))によると、原因とされているチキンはCastilla-La-Manchaにある SADA S.A.社が製造し、Pimpollo 及びPollo Asada SADAとして市販されていたが、現在回収が行われている。また、AESは消費者に同社製のローストチキンを喫食しないよう呼びかけている。 http://www.aesa.msc.es/aesa/web/AesaPageServer?dpage=56&idcontent=5806 スペインのサルモネラ症アウトブレイクで患者600人 Spanish Salmonella outbreak infects 600 August 2, 2005 Agence France Presse 消費者団体の発表によると、7月29日から17の自治体中13箇所、ローストチキンによるサルモネラ症のアウトブレイクが起こり、648人が感染した。北部のバスク地方と地中海のBalearic島という離れた場所から患者が出ており、Castilla La Mancha州にある製造会社の調査が開始された。 [The Spanish Food Safety Agency (Agencia Española de Seguridad Alimentaria: AESA)に公式発表を掲載]
2005-17	1	スペイン	Eurosurveillance	鶏肉料理によるサルモネラ症(スペイン) 3 August 2005 鶏肉料理によるサルモネラ症のアウトブレイクで、患者が921人に達した。90歳男性がSada 社製の鶏肉料理を喫食後に死亡し、関連性を調査中である。この業者は2種類の鶏肉製品を製造しており、アウトブレイクが明らかになった7月29日から製品150,000個を回収した。アウトブレイクは17州中13州で発生した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:11979843134039249600::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE_F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29929 スペインにおける調理済み鶏肉喫食と関連したSalmonella Hadarのアウトブレイク。現在までに 2000人以上が発症。2005年7月~8月。(E-alert 8月9日) E-alert 9 August: Over 2000 cases so far in Salmonella Hadar outbreak in Spain associated with consumption of pre-cooked chicken, July-August 2005. 11 August 2005 2005年8月5日現在、2138人のサルモネラ胃腸炎患者がスペイン国立疫学センター(CNE: National Centre for Epidemiology)に報告されている。報告された患者は疫学的および微生物学的にスペイン中で小売されている調理済みローストチキン真空パックの特定ブランドの喫食に関連していることが確認されている。7月28日にCNEに8家庭から25名のサルモネラ症の臨床症状を呈した患者発生情報が寄せられ、同日さらに別の2カ所でも同様の被害報告が寄せられたため、スペイン食品安全局(Spanish Food Safety Agency)が原因食品の調査を開始した。7月29日には早期警告および対応システム(EWRS: Early Warning and Response System)とEnter-netを介してヨーロッパ中の保健衛生関係者に警告情報が送付された。患者検便から分離された90株と鶏肉検体から分離された6株がNational Referenceラボに送付され、現在までに解析結果が得られている35株(患者30株、鶏肉5株)においてSalmonella Hadarが、さらにそのうち34株においてphage type2が確認された。分離株はampicillin, cefalotine, streptomycin, nalidixic acid and tetracyclineに耐性であった。パルスフィールド電気泳動(PFGE)パターンでは患者株と鶏肉株の間以下の対応策を実施した。 1. 7月28日と29日に原因ブランドの鶏肉製品が回収された。 2. 7月28日にスペイン中で既に購入されている原因ブランドの鶏肉製品を喫食しないように、スペイン厚生省はマスメディアを利用した大々的なキャンペーンを行った 近年のスペインにおける最も大規模なサルモネラ症のアウトブレイク事例である。原因ブランドの鶏肉製品の回収後に発症数が劇的に減少していることから、実施 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050811.asp#1
2005-22	1	スペイン	Epidemiol Infect	St.June祭のために大量(過剰)調理した卵を含む食品に起因する食品由来Salmonella 感染アウトブレイク A foodborne outbreak of Salmonella infection due to overproduction of egg-containing foods for a festival. Camps N, Dominguez A, Company M, Perez M, Pardos J, Llobet T, Usera MA, Salleras L; Working Group for the Investigation of the Outbreak of Salmonellosis in Torroella de Montgri. Epidemiol Infect. 2005 Oct;133(5):817-22. 2002年6月、治療を受けた患者1,435名、そのうち入院患者117名という大規模な胃腸炎アウトブレイクがスペインのカタロニアで発生した。Cocaと呼ばれるパニナクリューム付きのハードベストリーの喫食が疾患と関連していた。患者及び調理従事者からの検便、製造工場の環境並びに食品を調査した結果、Salmonella Enteritidisが患者154名、調理従事者3名及び食品9検体から分離された。アウトブレイクに関連して分離された株は全て同一であった。祭りの日に施設の生産能力以上のベストリーを生産するため、卵を含む食品の不適切な取り扱いが生じたのがアウトブレイクの原因と示唆された。

2005-25	2	その他	Center for Science in the public Interest	生鮮野菜によるサルモネラ症アウトブレイクの増加 Center for Science in the Public Interest(CSPI)によると、サルモネラ症の主要な感染源として生鮮野菜が鶏肉に近づきつつあり、生鮮野菜によるアウトブレイクは鶏肉に比べ、大規模な傾向があるとしている。 CSPIの1990年から2003年までのアウトブレイク情報データベース約4,500件のうち、生鮮野菜によるものが554件で患者は28,315人であった。この554件のうち、111件がサルモネラ症のアウトブレイクであった。1990年から2001年のサルモネラ症のアウトブレイクでは、家庭によるものが121件、生鮮野菜が29件であった。しかし、2002年から2003年には、生鮮野菜が31件で家庭が29件であった。生鮮野菜と野菜は健康的な食事の中心であるため、これらの安全性を向上させるための対策が重要である。FDAは生産者に肥料の使用を減らすよう要求するべきであり、追跡を可能にするため、包装業者や輸送業者は記録管理をする必要がある。 海産物によるアウトブレイクは899件で他の食品より多いが、患者は9,312人のみである。家庭によるアウトブレイクは476件で患者は14,729人、牛肉は438件で12,702人、卵は329件で10,847人であった。CSPIのデータベースに含まれているのは、食品と病原菌が特定されたもののみであるため、全食品由来疾患の一部である。 CDCは、米国では毎年7,600万人が食品由来疾患を発症し、5,000人が死亡していると推定している。最近、レタス、サラダ、メロン、発芽野菜(Sprouts)、トマトなどの野菜・果実を含む食事によるサルモネラ症アウトブレイクが発生している。2004年、ローマ・マトによるサルモネラ症アウトブレイクが3件あり、患者561人が発生した(食品安全情報No. 8/2005(2005.04.13)にて紹介)。2000年から2002年、メキシコから輸入されたカンタロープによって155人がサルモネラ症を発症し、2人が死亡した。また、生鮮野菜に含まれる病原菌はサルモネラだけではなく、2003年、ペンシルバニアでグリーンオニオンにより555人がA型肝炎を発症し、3人が死亡した(食品安全情報No. 20/2003(2003.12.24)、No. 14/2004(2004.07.07)、No. 25/2004(2004.12.08)にて関連情報を含め紹介)。また、同年、サンディエゴでサラダミックスにより50人以上がE. coliに感染した(食品安全情報No. 15/2003(2003.10.15)にて紹介)。 CSPIは長年にわたって単一の食品安全担当機関の創設を勧告し、農場での作業の改善を強調してきた。食品由来疾患のアウトブレイクの2/3がFDAによって規制CSPIの報告、"Outbreak Alert! Closing the Gaps in Our Federal Food Safety Net"は、以下から入手可能である。 http://www.cspinet.org/foodsafety/outbreak_report.html
2005-26	2	その他	Health Protection Agency	マヨルカ島から帰国した旅行者のSalmonella Goldcoast感染アウトブレイク-最終報告 国際アウトブレイクコントロールチームが、マヨルカ島から帰国した旅行者のSalmonella Goldcoast感染アウトブレイクの調査を行なった。患者の定義は、9月20日から10月19日の間にSalmonella Goldcoast感染による胃腸疾患を発症し、発症前1週間にマヨルカ島を訪れていた者とされた。10月1日から12月1日までにヨーロッパ中から患者148人が報告された。内訳はイングランドおよびウェールズ(66人)、スコットランド(28人)、ドイツ(17人)、スウェーデン(12人)、ノルウェー(8人)、アイルランド(6人)、デンマーク(4人)、フィンランド(4人)およびマヨルカ島(3人)で、最後の発症日は10月19日であった。 イングランド、ウェールズおよびスコットランドの住民17人に聞き取り調査を行なった。患者からの聞き取り調査のデータの分析から食品、食品施設など感染源として可能性のあるものは特定できなかった。12月1日にチームが再召集されてアウトブレイクの終息が宣言された。環境調査も疫学的調査は打ち切られることになった。 http://www.hpa.org.uk/odr/pages/news.htm#goldcoast
2006-4	2	その他	Promed	1. 複数の国にまたがったサルモネラ症アウトブレイクの一覧 February 12 2006 1973~1974年 アウトブレイク1件 患者は米国の80人とカナダの39人 血清型はS. Eastborne 感染源はチョコレート 1995年 1件 英国の27人 S. Agona イスラエルから輸入されたスナック 1997年 1件 米国とフィンランドの242人 S. Stanley アルファルファ 1997年 1件 ヨーロッパ西部 S. Livingstone 一部の患者はチュニジアで感染 1998年 ドイツ、オーストリア、ベルギー、スウェーデン、フィンランドおよび英国 S. Blockley 一部の国ではウナギの薫製 1999年 1件 1999年にトルコを旅行したヨーロッパ人275人 S. paratyphi B 2000年 アイスランド、イングランドおよびウェールズ、オランダ、スコットランドおよびドイツ 396人 S. Typhimurium DT204b レタス 2000~2001年 1件 カナダの168人と米国の11人 S. Enteritidis PT30 生アーモンド 2001年 オーストラリアとスウェーデン S. Typhimurium DT104 ゴマと蜂蜜入りトルコ産キャンディ 2001年 1件 オーストラリアとカナダ S. Stanley 中国産ピーナッツ 2001年 1件 ヨーロッパ数カ国 S. Oranienburg ドイツ産チョコレート 2001年 1件 クレタ島とカルパトス島から帰国したスキャンジニア人301人 S. Enteritidis 鶏肉の可能性 2003年 オーストラリアとニュージーランド S. Montivideo エジプトとレバノンから輸入されたゴマ製品 2004年 中国、台湾、韓国、フランス、イタリア、日本、マレーシア、メキシコおよび英国で、S. Enteritidisに汚染された生アーモンドが回収された。 2004年 ノルウェー、スウェーデンおよび英国でS. Thompsonに汚染されたルッコラが確認された。 2005年 1件 カナダの3人と米国の2人 S. Thompson ベット 2005年 1件 スウェーデン6人、スイス3人、ドイツ2人、オーストリア5人、英国3人およびフランス27人 S. Stourbridge フランス産の未殺菌ソフトチーズ 2005年 1件 マヨルカ島を旅行したスコットランド37人、アイルランド6人、スウェーデン6人、ノルウェー8人、デンマーク3人ドイツ20人およびフィンランド4人 S. Goldcoast 2005年 1件 デンマークの22人 S. Typhimurium DT104 イタリアから輸入された生牛肉のカルパッチョ http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1425876848020569676::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,31991
2004-13	1	中国	Promed	サルモネラ症(中国) 6月14日、広東省でサルモネラによる集団食中毒が発生し、5日間で患者は少なくとも120人に。感染源はパン屋の焼き菓子と推定。
2004-14	2	中東	WHO	ゴマベース食品 - 中東地域のハルバとタヒニ 最近、中東地域から輸入されたゴマベース食品のハルバ(ゴマと蜂蜜でできた菓子)とタヒニによるサルモネラ感染集団発生が数件あった。2001年、ハルバによるSalmonella Typhimurium DT104感染の国際的な集団発生があり、2003年にはオーストラリアでタヒニにより55人がSalmonella Montevideoに感染した。このため、英国では英国食品基準庁が輸入されたタヒニを回収した。これらの食品では、極めて低濃度の汚染があったところに、常温での長期貯蔵などの不適切な取り扱いによって菌が増殖した可能性が高い。 推奨事項 食品安全当局は、上記の食品からサルモネラ感染が起こることに警戒するとともに、保健所や食品業界への情報提供、調査、他国の食品安全機関との情報共有を行なうこと。 http://www.who.int/foodsafety/fs_management/en/infosan_salm.pdf
2006-6	2	デンマーク	Statens Serum Institut	2005年の人畜共通腸内感染症(デンマーク) デンマークでは、Campylobacter jejuni/coli感染が最も多い人畜共通感染症である。2005年、検査機関で確認された患者は3,671人(100,000人当たり68人)で、最近3年間あまり変化がない。 サルモネラ症は、1997年以来全体に減少しているが、2005年は2004年より17%増加し、1,775人(100,000人当たり33人)であった。2004年と比較すると、S. Enteritidisが18%増加(542人でサルモネラ症の36%)、S. Typhimuriumが22%増加(565人でサルモネラ症の32%)で、他の血清型は8%増加(568人)であった。2005年も2004年と同様、S. Enteritidisが最も多く、次はS. Typhimuriumであった。 Yersinia enterocolitica感染患者は241人(100,000人当たり4.4人)で、2004年より6%増加した。 ペロ毒素産生E. coli(VTEC)感染患者は158人(100,000人当たり2.9人)で、2004年より7%増加した。O157グループの感染患者は25人(16%)であった。溶血性尿毒症症候群患者は6人で、このうちVTEC感染が確認されたのが4人、可能性が1人であった。年齢別発生は2004年とあまり変化がみられなかった。 VTECとY. enterocolitica感染のアウトブレイクはなく、S. Typhimurium感染のアウトブレイクが数件、カンピロバクター症の大規模なアウトブレイク1件が報告された。 細菌性腸内感染症に関する詳細な情報がhttp://www.ssi.dk/germ/から入手可能である。 http://www.ssi.dk/sw38271.asp
2004-15	1	ドイツ	Promed	サルモネラ症(ドイツ) Salmonellosis, Fatal - Germany (Bavaria) July 20, 2004 ドイツ南部の病院と高齢者施設でサルモネラ症が発生し、患者が32人、死亡者は7人になった。患者のうち12人が病院の職員で、10人がその病院の患者、残り10人が高齢者施設の住人である。感染源は今のところ不明であるが、共通の会社から食品を調達している。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15072415928731667636::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26087
2004-19	1	ドイツ	Eurosurveillance	ドイツから英国を巡るクルーズ船でサルモネラ症発生 英国を巡るクルーズ船で胃腸疾患が発生し、現在調査中である。船は乗組員を含めた940人を乗せ、8月28日にドイツ北部のBremerhavenを出港した。歓迎ディナーの後8月29日~9月1日の4日間にわたって、86人が胃腸疾患を発症した。現在のところ16人がサルモネラ症であること、分離菌の多くがSalmonella Enteritidis PT4であることが確認された。9月2日以降さらに26人が発症し、これらの患者からはまだ菌が分離されていない。患者の再発生により、共通の感染源の存続、Salmonellaの2次感染、ノロウイルスなど別の病原菌による同時発生の可能性が考えられ、調査が続行されている。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040909.asp#1

2006-4	1	ドイツ	Robert Koch-Institut	サルモネラ症で12歳児が死亡 2005年12月7日に、12歳男児の死後検査を実施した糞便の培養後からSalmonella Enteritidisが検出されたという報告がカールスルーエ公衆衛生局に対してなされた。この男児は短期間のうちに劇症経過を辿る悲劇的な疾患のために死亡した。 この12歳の男児は、12月1日から2日にかけての夜間に、急激な下痢と嘔吐に襲われたが、発熱は見られなかった。1日の午後友人宅でクッキーを焼いた際に、まだ焼いていない生地を味見をしていた。12月2日には、この男児の母親(男児と同様に焼いていないクッキー生地を味見をしていた)にも同じ症状が現れたが、男児よりも軽かった。12月2日は男児の経過に変化が認められなかった。発症後、対応療法(液体摂取、軟らかい食事)が続けられた。12月3日の明け方(午前5時ごろ)に、ベッドの中で男児は再び嘔吐をした。この時点になって、両親は男児の呼吸の様子がおかしいことに気づいた。駆けつけた家庭医は、危険な状態と認識し、急いで救急隊を呼んだ。心臓循環系停止が現れたため、即座に人工蘇生術が開始された。人工蘇生術を継続させながら、地区の小児科病院に搬送されたが、まもなく病院において死亡した。両親の話によると、この男児は以前から健康であり、既往歴らしきものも認められなかった。病院では、死後の髄液、血液、尿、大便に対する検査が実施された。大便と尿の培養後からS.Enteritidisが検出された。 ハイデルベルグ大学法医学研究所が実施した剖検では、特別の見解は得られなかった。腸管の微視も認められず、敗血症も認められなかった。しかし、同研究所で血液培養を実施したところ、2検体(うち1検体は心臓の血液由来)から、S.Enteritidisが検出された。従って、この男児は劇症のサルモネラ敗血症で死亡したと考えられた。 解説:サルモネラ感染症は、ドイツ国内においては最多発感染性疾患である(例えば、2004年にロバート・コッホ研究所に届出の寄せられた件数は56,947件)。感染症防止法(IfSG)では、第7条に基づき検査結果が陽性の場合には届出が義務づけられている。ドイツでは、病原菌検出の届出の行なわれた細菌性胃腸炎のうちで、今までに最も多かった病原菌はサルモネラである。感染原因の大半が、汚染された食品や、この種の食品を用いて調理した場合である。臨床像は無症候性の感染から、軽度または重篤な症状まで多様である。大半のケースにおいては、定型な急性胃腸炎の形で現れ、発熱を伴う場合と伴わない場合がある。合併症はむしろ稀である。 http://www.rki.de/efn_006/nn_767686/DE/Content/Infekt/EpidBull/Archiv/2006/05_06.templateId=raw.property=publicationFile.pdf/05_06
2006-6	2	ニュージーランド	Public Health Surveillance, New Zealand	ニュージーランドの月齢サーベイランス報告 カンピロバクター症 2006年1月、カンピロバクター症患者は1,621人が報告され、2005年の同月1,351人であった。72人が入院し、122人(7.5%)が外食をしており(全データフィールドの13.0%)、49人(3.0%)がレクリエーションとして水と接触(15.2%)、43人(2.7%)が未処理の水を飲み(14.4%)、27人(1.7%)が排泄物と接触(15.6%)していた。 クリプトスポリジウム症 2006年1月、クリプトスポリジウム症患者は43人が報告され、2005年の同月は13人であった。5人(11.6%)が未処理の水を飲み(全データフィールドの25.6%)、5人(11.6%)がレクリエーションとして水と接触(22.6%)、4人(9.3%)が排泄物と接触(39.5%)、4人(9.3%)が外食をしていた(32.6%)。 サルモネラ症 2006年1月、サルモネラ症患者は146人が報告され、2005年の同月は84人であった。14人が入院した。S.Typhimurium(STM)PT160が40人で最も多く、S.Typhimurium PT1(17人)、S. Typhimurium PT156(13人)の順であった。 http://www.surv.esr.cri.nz/PDF_surveillance/MthSurvRpt/2006/200601JanRpt.pdf
2004-25	1	ノルウェー	Eurosurveillance	汚染ルッコラサラダによるSalmonella Thompson感染(ノルウェー) 11月5日、ノルウェーの公衆衛生研究所で外国渡航経験のない患者からSalmonella Thompsonが3株分離された。ノルウェーのSalmonella Thompson感染者は1年当たり2〜5人で、ほとんどが外国由来であるが、11月24日までに国内から患者13人が報告された。このため警告が発せられ、ケースコントロールスタディが実施された。11月4〜24日の間に糞便からSalmonella Thompsonが確認された13人全員、患者1人につき年齢と性のマッチした対照2人を対象とした。18の食品について患者には発症前3日間、対照には11月21〜23日の摂取について調査を行った。 予備結果 患者11人と対照25人の予備分析により、ルッコラサラダとミックスサラダに関連性がみられた。ルッコラサラダを食べたのは、患者6人(55%)と対照1人(4%)、1人が摂取不明であった。マッチさせたオッズ比は無限度で、マッチしていないオッズ比は36(95%信頼区間 3.4〜384)であった。ミックスサラダを食べたのは、患者9人(82%)と対照7人(28%)で、1人が摂取不明であった。マッチさせたオッズ比は無限度で、マッチしていないオッズ比は23(95%信頼区間2.5〜218)であった。少なくとも患者7人が販売前にビニール袋に包装されたミックスサラダを食べ、おそらくルッコラを含んでいたと考えられる。 結論 ケースコントロールスタディは、ルッコラサラダが今回のSalmonella Thompsonアウトブレイクの感染源であることを示している。ノルウェーで消費されるルッコラはほとんどが輸入品であるため、アウトブレイクは国際的なものになる可能性がある。調査は続行されており、Food Control Authorityがサンプルを採取し、製品の追跡に取り組んでいる。 http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?articleId=1125
2005-15	2	フランス	Institut De Veille Sanitaire	フランスにおけるSalmonella Worthington感染(2005年1月〜6月) 2005年7月8日 2005年1月よりSalmonella Worthington感染が47例確認されている。これはパリにあるパスツール研究所のSalmonella reference national center (CNR des Salmonella)において通常観察される数より遥かに多い数である(通常は平均で年間5件)。疫学調査により2005年1月29日〜6月21日において47例確認され、37例はそれぞれ3つの病院における確認であり、10例は単独例であった。病院での患者の平均年齢は80歳(44歳〜104歳)であり、それ以外の平均年齢は63歳(15歳〜90歳)であった。47例のうち43例(91%)は入院中であり、さらにその3分の2は長期入院中であった。 ○病院1: 2005年1月29日〜6月21日に14例、2月10日〜4月14日に10例、6月7日〜21日に4例が確認された。これらの患者は発症と同時に入院し(ほとんどが長期入院)2名の患者が死亡した。 ○病院2: 2005年4月3日〜5月23日において19例確認された。これらの患者は平均して26ヶ月の長期入院患者であった。 ○病院3: 2005年5月6日〜6月17日において4例確認された。これらの患者はリハビリのために入院していた。2名の患者が死亡した。 症例における発症の前週の摂取調査により共通食品は特定されなかったが、食事の栄養素改善やお年寄りが食べやすいように柔らかくするために同一メーカーの乾燥粉乳が多くにおいて使用されていた。情報が入手可能であった36例の病院症例のうち36例(100%)において確実(23例)またはおそらく(13例)、発症の前週の食事に乾燥粉乳が使われていることが判明した。7月7日にメーカーや流通業者による汚染が疑われるロットの乾燥粉乳の回収が行われた。 http://www.invs.sante.fr/display/?doc=presse/2005/le_point_sur/salmonella_worthington_080705/index.html

2005-6 2005-7 2005-10	1	フランス	eurosurveillance Institut De Veille Sanitaire	乳児用ミルクによるSalmonella agona感染のアウトブレイク(フランス) E-alert 9 March: Nationwide outbreak of Salmonella enterica serotype Agona infections in infants in France, linked to infant milk formula, investigations ongoing (published 9 March 2005) 2005年1月～2月、Centre National de Référence des Salmonelles(NRC-Salm)によりSalmonella agonaの分離数の増加が確認された。3月4日現在で32菌の分離が報告されており、これは2000～2004年同月平均の4倍である。 2004年12月28日から2005年2月17日までに発症した1～7歳の小児21人に調査が行われた。21人は、症状発症前にPicotブランドの様々なタイプの乳児用粉ミルクを飲んでた。フェネルを含む飲料も飲んでた者が2人いた。予備結果によると、このミルクが感染源である可能性が高く、微生物調査、詳細なタイピングについて調査が実行されている。 Picotの粉ミルクは回収され、アジアへの輸出についても調査が行われた。3月4日にEuropean Early Warning and Response Systemに警告が報告され、3月7日にEnter-net(胃腸疾患感染症の国際サーベイランスネットワーク)を通じて情報が要請された。情報は、Institut de Veille Sanitaireのウェブサイトから入手可能である(フランス語、以下Reference 1, 2に要約あり)。 S. agonaは約2,000あるSalmonella血清型の一つであり、様々な家畜や飼料に存在する。2000～2004年、NRC-Salmは毎年約100株を分離している。2003年のドイツでのアウトブレイクでは、感染源はアニスとフェネルの飲料であった。他に乾燥乳、ピーナッツ風味のスナック、シリアル製品によるアウトブレイクがある。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050310.asp Reference 2 ほぼ上記英文と同様であるが英文でふれられていない情報として以下の2点がある。 1. 感染した子供の数:21人の子供が下痢の症状があり、そのうち15人で下血が見られ、14人が発熱。9人の子供(43%)が入院した。なお全員が治療している。 2. 飲んだPICOTミルクの詳細:hypo-allergénique(アレルギーを起しにくい)10人、anti-regurgitation(吐出しにくい)5人、satieté(満腹)4人、nutrition quotidienne(日常の栄養補給)1人、特定せず1人。 http://www.invs.sante.fr/presse/2005/le_point_sur/lait_picot_080305/index.html ● Institut De Veille Sanitaire, France http://www.invs.sante.fr/index.asp Épidémie de Salmonellose à Salmonella enterica sérotype Agona. Janvier – février 2005. Point au 24/03/05. 25 mars 2005. フランスINVSは24日付で「Salmonella enterica血清型Agonaによるサルモネラ症の流行:2005年1月～2月」を更新した。 サルモネラ国立リファレンスセンター(パリのパスツール研究所)は、1月から3月23日まで、同血清型のサルモネラ症に感染した36人(生後1ヶ月～11ヶ月の男児36の患者の家族に事情を聞いたところ、35名の乳児が発症する前3日間に「PICOT」ブランドの乳児用調製粉乳(1～2歳児用):« hypoallergénique »(16名)、「a http://www.invs.sante.fr/display/?doc=presse/2005/le_point_sur/salmonellose_250305 Salmonella enterica 血清型Agonaによるサルモネラ感染、2005年1月～4月(update) Épidémie de Salmonellose à Salmonella enterica sérotype Agona. Janvier-avril 2005. 2005/05/03 フランス衛生監視研究所(INVS) 食品安全情報第9号でも紹介したこのアウトブレイクはその後、5月3日時点で123名の乳児がSalmonella enterica 血清型Agonaのサルモネラに感染したことがルモ http://www.invs.sante.fr/display/?doc=presse/2005/le_point_sur/salmonella_agona_040505/index.html
2005-12	1	米国	Promed	サルモネラ症(米国) 27 May 2005 5月19日にサウスカロライナ州Kershaw郡Camdenのレストランで食事をした後、食中毒を起こした患者176人が報告された。5月22日に食中毒の合併症で死亡した58歳男性からサルモネラが検出され、感染源を調査中である。 サウスカロライナ州ではサルモネラによる死亡者は稀であり、過去7年間に2人である。1996年、Greenville郡で244人が食品由来疾患を発症した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5431371917858630707:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,29076 サルモネラ症 続報(米国) Salmonellosis, Foodborne, Fatal – USA (South Carolina) (02) 30 May 2005 サウスカロライナ州のサルモネラ症患者が5月27日には272人に増加し、入院患者は50人で、最近の同州で最大のものとなった。感染源を調査中であるが、まだわかっていない。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12504407565321643456:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29125 サルモネラ症(米国)続報 Salmonellosis, Foodborne, Fatal – USA (South Carolina) (03): Turkey 3 June 2005 七面鳥のサンプルと患者の20検体からSalmonella enterica Enteritidisが確認され、感染源は七面鳥である可能性が高い。現在までのところ、確定患者と疑い例が合計で304人、入院患者が56人、死亡者が1人である。調査によると、関与したレストランの装置が一部適切に機能しておらず、食品の加熱不十分につながったとみられている。レストランでは、ServSafeなどによるスタッフの教育を検討している。ServSafeは、食品安全の一般原則とHACCPの概念を教育するためのプログラムである。また、サウスカロライナ州の保健環境管理部門はリスクアセスメント教育も行なう予定である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5145833462283131465:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29184
2005-13	1	米国	Promed	サルモネラ症(米国) June 14, 2005 イリノイ州Madison郡で、5月21日から6月3日の間にメキシコ料理レストランで食事をした人からサルモネラ症患者22人が確認され、患者の一部はレストランの従業員である。感染源は特定されていない。レストランは1年に少なくとも3回は保健所の検査を受け、前回の2月28日の検査では違反はなかった。 サウスダコタ州で、サルモネラ症により女性1人が死亡したほか、ともに食事をした家族3人、同じ小売店から購入した食材を摂取したもう1人も発症した。販売店の調査が行なわれたが、大きな違反はなかった。他にも第2週目の週末にサルモネラ症患者の報告が2件あったが、この店との関連はわかっておらず、調査中である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:803250800939703307:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29294
2005-15	1	米国	Promed	未殺菌のオレンジジュースによるサルモネラ症(米国) 14 July 2005 ミシガン州で、5月初めから6月の間に少なくとも11人のサルモネラ症患者が出て、調査を行っている。感染源は、回収が行われたフロリダ州Orchid Island Juice社の未殺菌のオレンジジュースと考えられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:8160687144698981516:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,29660
2005-9	1	米国	Promed	冷凍鶏肉によるサルモネラ症(米国) 25 April 2005 ミネソタ州とミシガン州で、詰め物入り冷凍鶏肉製品によるサルモネラ症患者4人と類似製品による患者9人が出たため、冷凍食肉ならびに鶏肉製品を摂取する際には内部温度が少なくとも74℃になるまで加熱するよう呼びかけられている。"Cook and Serve", "Ready to Cook", "Oven Ready"などのラベルがある製品はready-to-eat食品とは異なり、外見は調理が完了しているように見えるが、生の製品と同様の調理が必要である。患者4人と該当製品から分離された株が一致し、Salmonella enterica Heidelbergであった。USDAの検査によると、生のブロイラー鶏肉の平均13%にSalmonella属菌が検出されている。USDAのHACCP基準は20%である。FSISは、冷凍鶏肉製品の出荷方法を調査し、製品が生であることをより明確に示すようラベリングを変更すべきかどうかを検討する予定である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:8846993370579166534:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,28755

2005-12	2	ヨーロッパ	Eurosurveillance	2003年のヨーロッパにおける人畜共通伝染病の傾向 Trends in zoonoses in Europe, 2003 volume 10 issue 5, 26 May 2005 1994年より毎年、ヨーロッパにおける人畜共通伝染病の疫学データが報告されており、2003年版が発表された。European Community Reference Laboratory for the Epidemiology of Zoonosesがデータ収集シートとデータ報告表を作成し、適時変更されている。2003年以前の報告を規定したEuropean Council directive 92/117/EECは2003年に廃止され、人畜共通伝染病の病原体の監視に関するDirective 2003/99/ECと、サルモネラ属菌など食品由来疾患の病原体のコントロールに関するRegulation (EC) No.2160/2003に替わった。 サルモネラ症およびカンピロバクター症 2003年のEUでは、人間の畜共通伝染病としてサルモネラ症およびカンピロバクター症が最も多く、それぞれ約135,000人の患者が報告された。サルモネラ症患者は数年間減少傾向にあり、2003年は2002年より7%減少した。カンピロバクター症患者は長年増加した後、2002年は5%、2003年は9%減少した。動物のサルモネラ症有病率に特別な傾向はなく、一部の国では家禽のSalmonella Enteritidisが増加した。サルモネラ属菌が最も多く見つかった食品は家禽の肉であった。 エルシニア症 2003年、人間の患者は9,399人報告され、食品では主に豚肉から検出された。 ブルセラ症 2003年、EU加盟国13国およびノルウェーで合計1,094人の患者が報告された。2002年の2,386人から大幅に減少し、特にギリシャ、ポルトガルおよびスペインで顕著である。ブルセラ症の非発生国と認められている国の患者は、輸入食品によると考えられる。フランス、ギリシャ、イタリア、アイルランド、ポルトガルおよびスペインは、ウシ、ヒツジ、ヤギのブルセラ症の非発生国とは認められていない。ウシのブルセラ症について、管理プログラムが行われている地域において共通の傾向はない。ヒツジとヤギについては、イタリア、スペインおよびポルトガルで減少傾向が続いている。 ペロ毒素産生大腸菌(VTEC) 2003年、VTEC感染患者が減少した。EUおよびノルウェーで、VTEC感染患者または溶血性尿毒症症候群(HUS)の患者2,607人が報告された。一部の国ではウシと人リスティア症 2003年のEUおよびノルウェーの患者は1,048人であった。低い濃度のListeria monocytogenesが様々な調理済み食品から検出された。 トリヒナ症 EUおよびノルウェーから合計56人の患者が報告された、さらに、ラトビアおよびリトアニアからそれぞれ22人、19人の患者及び少数の動物での発症例も報告された。 狂犬病 5カ国から動物の狂犬病が報告され、ドイツでは減少した。2003年、人間の患者はなかった。 ウシ結核 スペイン、イタリア、ギリシャ、アイルランドおよびポルトガルで根絶プログラムが行われた。感染した群れの比率の範囲は、ポルトガルの0.09%からアイルランドの6.9% http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050526.asp#4
2005-23	2	ヨーロッパ	Eurosurveillance	マジョルカ島への旅行者のSalmonella Goldcoast感染について続報 ヨーロッパで、2005年10月からSalmonella Goldcoast感染患者178人が報告され、このうち73人(41%)がスペインのマジョルカ島を訪れた旅行者であった。10月初め以来、イングランドとウェールズは確認患者94人を報告した(9月は2人であった)。スコットランドが37人(うちマジョルカへ旅行者が28人)、ノルウェーが8人(4人)、アイルランドが6人(6人)、スウェーデンが6人(6人)、ドイツが20人(6人)、デンマークが3人(1人)、フィンランドが4人(4人)であった。スペイン本土とマジョルカ島からは、患者の報告はない。 イングランドとウェールズでの暫定データによると、0~4歳の小児が50%を占め、男性が54%、女性が46%、年齢の中央値は3歳、範囲は0~76歳であった。海外渡航歴があるのは34人(38%)で、このうち18人(53%)がマジョルカ島を訪れていた。現在、感染源を調査中である。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/051103.asp#2
2004-14	1	ロシア	Promed	食中毒(ロシア) June 30, 2004 ロシア極東アムール地域Tarnbovkaで、学校の卒業パーティーに参加した207人が食中毒により入院した。患者の84%がサルモネラ陽性で、その他の患者はブドウ球菌感染と診断された。感染源は卵とイカのサラダであった。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:8988742396516567072::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,25844
2004-16	1	ロシア	Promed	サルモネラ症(ロシア) August 3, 2004 西シベリアのKhanby-Mansi自治区で、トルコの建設会社の職員174人がサルモネラ症で入院した。いずれも重症ではなく、原因を調査中である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:4653651175178327218::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26246
2004-17	1	ロシア	Promed	サルモネラ症(ロシア) 西シベリアSurgut市で食中毒患者が216人報告され、このうち187人は中程度、29人が重症から中程度である。患者はいずれもトルコの建設業者の職員である。
2003-12	2		Health Protection Agency	Salmonella Enteritidisによる集団発生増加 29 August 2003 2003年6月1日~8月27日までに22件のSalmonella Enteritidisによる集団発生がThe Health Protection Agency Communicable Disease Surveillance Centre (GDSC)に報告された(前年同時期には14件)。計356人が発症したが、ファージタイプは多岐に亘る。12件は中華料理店、3件はパン屋、1件は病院が原因施設であり、さらに原因食品について調査中。2002年暮れの調査でスペイン産の卵の5.1%にSE汚染が発見されたことから、同国由来の液卵は必ず加熱するようにとの指示は現在も継続。 http://www.phls.org.uk/publications/cdr/pages/news.html#sent

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(カンピロバクター)

年次一号	※ 番号	国	出典	詳細
2006-1	2	EU	EFSA	2004年のEU域内における人畜共通感染症の病原体及び抗菌薬耐性の傾向と感染源に関するEFSAの報告書 2004年、EU 25カ国の人畜共通感染症のアウトブレイクは6,860件、患者は42,447人で、サルモネラ症とカンピロバクター症が最も多かった。サルモネラ症の報告患者は192,703人、100,000人当たり42.2人で、2003年より22%増加した。感染源は鶏肉と豚肉が多い。カンピロバクター症の報告患者は183,961人、100,000人当たり47.6人で、2003年より32%増加した。主な感染源は鶏肉で、とさつ時には鶏肉の80%以上がカンピロバクター菌を保有していた。 リステリア症の報告患者は1,267人、100,000人当たり0.3人で、2003年とほぼ同じであった。VTEC感染症の報告患者は17カ国で4,143人、100,000人当たり1.3人で増加した。Yersinia症の報告患者は10,000人以上であった。ヒト結核症の報告患者はデータが不完全で推測が難しいが、報告されたのは83人であった。 死亡者はリステリア症が最も多く、107人であった。 一般に、寄生虫性感染患者は病原菌性より少なく、トリヒナ症患者は300~400人、エキノコックス症もほぼ同数、トキソプラズマ症は約2,000人であった。狂犬病は2人であったが両者ともEU外での感染であった。 http://www.efsa.eu.int/science/monitoring_zoonoses/reports/1277_en.html
2004-18	1	アメリカ	Promed	原因多様の胃腸疾患 続報(米国) Gastroenteritis, Multiple Causes - USA (Ohio) (05) (06) August 27, 2004 August 26, 2004 Lake Erie's South Bass Islandで1,020人の患者が出たアウトブレイクに関し、数週間前の検査で2つの井戸の水がE. coli陽性であったことがわかったが、最近の検査では見つからず、E. coli陽性の患者はいない。さらに4つの公設井戸と少数の私設井戸がE. coli陽性であったが、汚染水が原因であるかどうかは分かっていない。19人の便検査の結果、14人がカンピロバクター、3人がノロウイルス、1人がサルモネラ、1人がジアルジア陽性であった。症状を訴えている者の95%が客であり、このうち84%が下痢、53%が嘔吐の症状を呈し、4%が受診している。現在、井戸の汚染原因も調査中である。8月26日には、オタワが患者1,020人を発表した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:14134781875047598324::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26527 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12564229851204200858::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26512
2004-25	3	イギリス	CDR Weekly	DEFRAによる2003年の人畜共通伝染病報告 英国環境・食糧・農村地域省Department for Environment, Food and Rural Affairs (DEFRA)が2003年の英国の人畜共通伝染病年次報告、"Zoonoses Report UK 2003"を発行した。これは、人畜共通伝染病に関する情報をまとめたもので、人間、食品および動物の状況に関する情報を提供し、食品由来ならびに水由来人畜共通伝染病、動物の報告人畜共通伝染病、その他の人畜共通伝染病に重点が置かれている。 Campylobacter感染症は、1998年の65,000人が2003年には49,050人と引き続き減少していた。市中での実際の感染率とカンピロバクターサーベイランスへの報告数の割合は約8:1と推測され、このことから2003年はCampylobacter感染患者が約400,000人であったと考えられた。全体のSalmonella感染患者数は引き続き減少しているが、英国全土でSalmonella Enteritidis非PT4が増加したため、S.Enteritidis全体の患者数がわずかに増加していた。Salmonella Typhimuriumは、イングランドとウェールズでわずかに増加したため、全土での患者数が増加した。 2002~2003年、北アイルランド、イングランドおよびウェールズでベロ毒素産生E.coli (VTEC) O157の患者が少し増加したが、スコットランドでは減少した。2003年、ラボで確認されたVTEC O157感染患者は874人で2002年(852人)よりわずかに増加した。1995年まで、英国全土でVTEC O157感染患者は増加傾向にあったが、その後は毎年約1,000人と変動がない。 Cryptosporidium感染症は、2002年の3,663人から2003年は6,626人と増加したが、2000年の7,083人より少なかった。BSEが確認された英国の牛は、2002年が1,039頭、2003年が547頭と減少し続けている。 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#zoonoses
2005-4	2	イギリス	Emerging Infectious Diseases	英国(イングランドとウェールズ)における食品由来疾病リスク、1996年~2000年 Disease risks from foods, England and Wales, 1996-2000 Emerging Infectious Diseases, Vol. 11, No. 3, March 2005 住民調査や国のサーベイランスシステムによるデータの照合、解析を行うことでイングランドとウェールズにおいて異なる食品の摂取による食品由来疾病のリスクを検討した。1996年~2000年に推定年間1,724,315件の食品由来疾病が発生し、そのうち21,997人が入院、687人が死亡した。健康被害として食品由来カンピロバクター感染が最も大きな影響を与えており(160,788名の初期治療入院と15,918名の入院)、サルモネラ症は最も多くの死者を出していた(209名)。最も重要な感染源は汚染鶏であり(398,420件、リスク(risk)発症=111名/100万食当り、致死率(case-fatality rate):死者数35名/患者10万人、死者数141名)、赤肉(牛、子ヒツジ、豚)はリスクが低いにもかかわらず、死亡に大きく関与していた(287,485件、リスク24名/100万食当り、致死率:死者数57名/患者10万人、死者数164名)。食品由来疾病の影響を減少させるためには主に鶏の汚染をコントロールすることに依存すると考えられた。
2006-2	2	イギリス	HPS Weekly Report	2005年のカンピロバクター症患者は4,581人で、2004年の4,365人から216人(5%)増加し、2003年の4,445人からもやや増加した。これまでスコットランドのカンピロバクター症患者は2000年が最多で6,482人が報告され、その後2004年まで毎年減少したが、2005年に増加した。2005年の患者は100,000人当たり9.02人、2004年は86.3人であった。
2003-17	2	オーストラリア	FsNet	食品媒介感染症のサーベイランス(オーストラリア) OzFoodNetのレポートから。2002年は8種の細菌性疾患患者23,434人の報告があった。このうち14,716人がカンピロバクター症、7,917人がサルモネラ症で依然上位を占めている。サルモネラ感染率が最も高いのは0~4歳男児で、5~9歳男児も増えた。カンピロバクター感染も0~4歳男児に多い。2002年のリステリア感染は、高齢者、免疫力低下者が97%を占め、最も多いのは80歳以上の男性であった。集団発生の病原菌として最も多いのはサルモネラで(28%)、そのうちTyphimuriumが81%を占めていた。カンピロバクター症の集団発生は1件、ウェルシュ菌によるものは8件であった。 http://131.104.232.9/fsnet/2003/11-2003/fsnet_nov_5-2.htm#story7
2006-1	2	オランダ	Infectieziekten Bulletin	オランダの食品由来感染症、2004年 オランダの1年間の食品由来感染症と食中毒の患者は、約300,000人から750,000人である。患者の一部は、感染症の電子通知システムを通じて報告されており、2004年には、アウトブレイク48件を含む、87件の感染症が報告された。食品由来ではサルモネラとノロウイルスが患者の大部分を占め、それぞれ193人と192人で、ついでカンピロバクターが32名であった。一方、食品由来が推測される他の病原体による患者は、赤痢345人、ブルセラ病8人、チフス31人、コレラ1人、A型肝炎447人、パラチフスA型21人とB型17人であった。2004年、食品由来感染症と食中毒の患者数は減少したのに対し、赤痢等の原因による報告患者数は横ばいかまたは増加した。このような患者のうち、汚染された食品または水によるものは0~38%であった。赤痢、A型肝炎、チフスおよびコレラなど食品由来疾患の報告は、夏季に最も多い。赤痢等は外国での感染が重要部分を占め、例えばA型肝炎では39%、チフスとコレラでは100%が外国での感染であった。アウトブレイクの48%が、レストラン等の商業施設で発生した。 http://www.rivm.nl/infectieziektenbulletin/bul1610/art.voedselgerel.html
2005-10	1	スペイン	Eurosurveillance	マドリッドの学校でのCampylobacter jejuniアウトブレイク 2003年5月23日、マドリッドの学校でCampylobacter感染による胃腸疾患のアウトブレイクがあった。学校には3歳から12歳までの生徒293人(13クラス)と成人26人が在籍していた。調査を行った253人のうち、81人がこのアウトブレイクによる患者の定義にあてはまった(発症率(AR)32%)。性差はなく(男性:女性=31.7%:32.5%)。クラス毎のARの中央値は30%(範囲:12.5%-60%)であった。患者全員が学校で食事をした生徒で、12歳の生徒のARが最も高く(50%)9歳が最も低かった(24%)。共通の症状は、下痢(93.6%)、腹痛(89.6%)、発熱(81.5%)、悪心(29.7%)および嘔吐(28%)であった。症状が継続していた期間は平均5.2日間、潜伏期間の中央値は73時間であった。81人のうち31人(38.3%)が受診し、5人の便培養のうち3検体からCampylobacterが分離された。多変量分析により、カスタードの摂取に疾患との有意な関連性が認められた(RP:3.15; 95% CI: 1.25-7.93)。また、摂取したカスタードの量が増えるとリスクも上昇していた。前日の料理には生の鶏肉が使用されており、生の食肉と調理済み食品の調理場所は分離されていなかった。 調査によるデータは、汚染されたカスタードが感染源である可能性が高いことを示している。しかし、カスタードの原料である超高温殺菌牛乳とバターによるCampylobacter jejuni感染のアウトブレイクは2003年に報告がないこと、前日に鶏肉が使用されていたことから、調理場で交差汚染があった可能性が高いと考えられる。米国とオーストラリアでも同様のアウトブレイクが発生していることがある。Campylobacter jejuniは、乾燥または冷凍状態では長く生存できないが、4℃に保たれた牛乳や食品、水の中では数週間生存する。生の鶏肉からの肉汁1滴中に存在する量で疾患を起こすため、生の鶏肉は重要な感染源である。 調査の結果として、次の対策が推奨された。 1) 学校の管理者は、アウトブレイクが疑われた場合の対応法を定期的に確認する。 2) 環境調査を行う際には、食品取扱者が実際に働いている日を含める。 3) 調理器具の微生物分析を行う。 4) 食品取扱者への衛生教育を向上させる。たとえば、生の鶏肉・食肉と他の食品との分離、調理道具や調理台の熱湯や洗剤による洗浄、生の鶏肉や食肉を扱った後の手洗い、鶏肉は内部が82℃になるまで、または赤味がなくなるか汁が透明になるまで完全に火を通すことなどである。 http://www.eurosurveillance.org/en/v10n04/1004-225.asp

2006-6	2	デンマーク	Statens Serum Institut	2005年の人畜共通腸内感染症(デンマーク) デンマークでは、Campylobacter jejuni/coli感染が最も多い人畜共通感染症である。2005年、検査機関で確認された患者は3,671人(100,000人当たり68人)で、最近3年間あまり変化がない。 サルモネラ症は、1997年以来全体に減少しているが、2005年は2004年より17%増加し、1,775人(100,000人当たり33人)であった。2004年と比較すると、S. Enteritidisが18%増加(642人でサルモネラ症の36%)、S. Typhimuriumが22%増加(565人でサルモネラ症の32%)で、他の血清型は8%増加(568人)であった。2005年も2004年と同様、S. Enteritidisが最も多く、次はS. Typhimuriumであった。 Yersinia enterocolitica感染患者は241人(100,000人当たり4.4人)で、2004年より6%増加した。 ペロ毒素産生E. coli(VTEC)感染患者は158人(100,000人当たり2.9人)で、2004年より7%増加した。O157グループの感染患者は25人(16%)であった。溶血性尿毒症症候群患者は6人で、このうちVTEC感染が確認されたのが4人、可能性が1人であった。年齢別発生は2004年とあまり変化がみられなかった。 VTECとY. enterocolitica感染のアウトブレイクはなく、S. Typhimurium感染のアウトブレイクが数件、カンピロバクター症の大規模なアウトブレイク1件が報告された。 細菌性腸内感染症に関する詳細な情報がhttp://www.ssi.dk/germ/から入手可能である。 http://www.ssi.dk/sw38271.asp
2006-6	2	ニュージーランド	Public Health Surveillance	ニュージーランドの月齢サーベイランス報告 January 2006 カンピロバクター症 2006年1月、カンピロバクター症患者は1,621人が報告され、2005年の同月は1,351人であった。72人が入院し、122人(7.5%)が外食をしており(全データフィールドの13.0%)、49人(3.0%)がレクリエーションとして水と接触(15.2%)、43人(2.7%)が未処理の水を飲み(14.4%)、27人(1.7%)が排泄物と接触(15.6%)していた。 クリプトスポリジウム症 2006年1月、クリプトスポリジウム症患者は43人が報告され、2005年の同月は13人であった。5人(11.6%)が未処理の水を飲み(全データフィールドの25.6%)、5人(11.6%)がレクリエーションとして水と接触(22.6%)、4人(11.6%)が排泄物と接触(39.5%)、4人(9.3%)が外食をしていた(32.6%)。 サルモネラ症 2006年1月、サルモネラ症患者は146人が報告され、2005年の同月は84人であった。14人が入院した。S. Typhimurium(STM)PT160が40人で最も多く、S. Typhimurium PT1(17人)、S. Typhimurium PT156(13人)の順であった。 http://www.surv.esr.cri.nz/PDF_surveillance/MthSurvRpt/2006/200601JanRpt.pdf
2005-12	1	米国	Promed	E. coli O157 (米国) 31 May 2005 5月17日から20日の間にオレゴン州Yamhillのキャンプに参加した人のうち、5月27日までに少なくとも10人のE. coli O157感染患者が確認された。感染源は現在調査中である。スタッフと5月20日に参加した人からは患者の報告はない。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:17537600151537663564::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29133 E. coli O157情報 (米国) E. coli O157, Religious Camp - USA (Oregon) (02) 2 June 2005 5月31日に発表されたオレゴン州のキャンプでのE. coli O157感染の感染源は、汚染水である可能性が高いと報告された。North Yamhill Riverから引いている水の処理システムが最近の豪雨により汚染されたと考えられている。50人以上が感染し、患者からはE. coli O157とカンピロバクターが確認された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15048034327834244974::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29169
2005-12	2	ヨーロッパ	Eurosurveillance	2003年のヨーロッパにおける人畜共通伝染病の傾向 Trends in zoonoses in Europe, 2003 volume 10 issue 5, 26 May 2005 1994年より毎年、ヨーロッパにおける人畜共通伝染病の疫学データが報告されており、2003年版が発表された。European Community Reference Laboratory for the Epidemiology of Zoonosesがデータ収集シートとデータ報告表を作成し、適時変更されている。2003年以前の報告を規定したEuropean Council directive 92/117/EECは2003年に廃止され、人畜共通伝染病の病原体の監視に関するDirective 2003/99/ECと、サルモネラ属菌など食品由来疾患の病原体のコントロールに関するRegulation (EC) No. 2160/2003に替わった。 サルモネラ症およびカンピロバクター症 2003年のEUでは、人間の共通伝染病としてサルモネラ症およびカンピロバクター症が最も多く、それぞれ約135,000人の患者が報告された。サルモネラ症患者は数年間減少傾向にあり、2003年は2002年より7%減少した。カンピロバクター症患者は長年増加した後、2002年は5%、2003年は9%減少した。動物のサルモネラ症有病率に特別な傾向はなく、一部の国では家禽のSalmonella Enteritidisが増加した。サルモネラ属菌が最も多く見つかった食品は家禽の肉であった。 エルシニア症 2003年、人間の患者は9,399人報告され、食品では主に豚肉から検出された。 ブルセラ症 2003年、EU加盟国13国およびノルウェーで合計1,094人の患者が報告された。2002年の2,386人から大幅に減少し、特にギリシャ、ポルトガルおよびスペインで顕著である。ブルセラ症の非発生国と認められている国での患者は、輸入食品によると考えられる。フランス、ギリシャ、イタリア、アイルランド、ポルトガルおよびスペインは、ウシ、ヒツジ、ヤギのブルセラ症の非発生国とは認められていない。ウシのブルセラ症について、管理プログラムが行われている地域において共通の傾向はない。ヒツジとヤギについては、イタリア、スペインおよびポルトガルで減少傾向が続いている。 ペロ毒素産生大腸菌(VTEC) 2003年、VTEC感染患者が減少した。EUおよびノルウェーで、VTEC感染患者または溶血性尿毒症症候群(HUS)の患者2,607人が報告された。一部の国ではウシと人リスティア症 2003年のEUおよびノルウェーの患者は1,048人であった。低い濃度のListeria monocytogenesが様々な調理済み食品から検出された。 トリヒナ症 EUおよびノルウェーから合計56人の患者が報告された。さらに、ラトビアおよびリトアニアからそれぞれ22人、19人の患者及び少数の動物での発症例も報告された。 狂犬病 5カ国から動物の狂犬病が報告され、ドイツでは減少した。2003年、人間の患者はなかった。 ウシ結核 スペイン、イタリア、ギリシャ、アイルランドおよびポルトガルで根絶プログラムが行われた。感染した群れの比率の範囲は、ポルトガルの0.09%からアイルランドの6.9% http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050526.asp#4
2005-26	1		Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu	未殺菌乳により学校児童22人がCampylobacter jejuniに感染 3月3日に農場を訪れた学校児童34人のうち22人が下痢、発熱、腹痛などを訴え、このうち19人は未殺菌乳を喫食していた。11人の検便検体とウシの堆肥から分離されたCampylobacter jejuniは、PFGEパターンとフラジリリン(flagellin:細菌の鞭毛の主要蛋白成分)が一致した。未殺菌乳を喫食していない3人はいずれも手で乳搾りを行っており、その後に食事を摂って感染したと考えられた。 http://www.rivm.nl/infectieziektenbulletin/bul1609/veld_schoolkinderen.html

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(腸炎ビブリオ)

年次一号	※番号	国	出典	詳細
2004-18	2	アメリカ	Promed	カキ養殖場にVibrio Parahaemolyticus(米国) August 22, 2004 アラスカ州のさらに3カ所のカキ養殖場でVibrio Parahaemolyticusが見つかり、自主的に販売を停止した。7月にカキの摂食後に発症した患者2人が報告され、調査が開始された。8月20日には、カキによるビブリオ感染の可能性のある患者48人と確認患者8人が報告された。今回の事例以前はこの州においてビブリオ属菌のモニタリングを行っていないが、それは通常アラスカの海水温度は増殖に必要な17°Cに達しないので問題となっていなかったからである。今年は例年より高温であるために菌が増殖したものとみられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:13432219662040699499::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26467
2004-20	1	アメリカ	Promed	Vibrio Parahaemolyticusによる食中毒(米国) September 27, 2004 フロリダ州で形成外科医の誕生日パーティに出席した189人のうち96人が食中毒を発症した。2人からVibrio Parahaemolyticusが検出され、感染源などを調査中である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:17657532891194015947::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26802
2005-2	1	チリ	Promed	水産食品によるVibrio Parahaemolyticus感染(チリ) January 18, 2005 チリのPuerto Montt地域で生のシーフードにより、Vibrio Parahaemolyticus 感染と考えられる患者201人が報告された。このうち少なくとも8人は感染が確認され、他は検査中である。シーフードは十分加熱して食べるようにという警告が出されたにもかかわらず、生で食べたことによる患者が増えている模様である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:10753145629957227965::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27765
2005-3	1	チリ	Promed	水産食品によるVibrio Parahaemolyticus感染(チリ) Vibrio Parahaemolyticus, Seafood - Chile (Puerto Montt) (02) January 26, 2005 ここ数日間にVibrio Parahaemolyticus感染患者が327人になった。Puerto Monttの住民は生の水産食品の危険を知っているが、問題は旅行者であり、旅行者への予防キャンペーンが行なわれる予定である。汚染の可能性のある水産食品が販売された場所はまだ確認されていない。
2005-5	2	チリ	Promed	魚介類によるVibrio parahaemolyticus感染(チリ) Vibrio parahaemolyticus, seafood - Chile (Puerto Montt) February 23, 2005 気候の変化と海水の温度上昇によってVibrio parahaemolyticusが繁殖し、1月以来6,300人以上が生または加熱不十分の貝類の摂食により感染した。政府は5分以上の加熱を呼びかけている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:3865541217914937353::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,28180

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(腸管出血性大腸菌)

年次一号	※番号	国	出典	詳細
2005-12	2	ヨーロッパ	Eurosurveillance	2003年のヨーロッパにおける人畜共通伝染病の傾向 Trends in zoonoses in Europe, 2003 volume 10 issue 5, 26 May 2005 1994年より毎年、ヨーロッパにおける人畜共通伝染病の疫学データが報告されており、2003年版が発表された。European Community Reference Laboratory for the Epidemiology of Zoonosesがデータ収集シートとデータ報告表を作成し、通時変更されている。2003年以前の報告を規定したEuropean Council directive 92/117/EECは2003年に廃止され、人畜共通伝染病の病原体の監視に関するDirective 2003/99/ECと、サルモネラ属菌など食品由来疾患の病原体のコントロールに関するRegulation (EC) No.2160/2003に替わった。 サルモネラ症およびカンピロバクター症 2003年のEUでは、人間の畜共通伝染病としてサルモネラ症およびカンピロバクター症が最も多く、それぞれ約135,000人の患者が報告された。サルモネラ症患者は数年間減少傾向にあり、2003年は2002年より7%減少した。カンピロバクター症患者は長年増加した後、2002年は5%、2003年は9%減少した。動物のサルモネラ症有病率に特別な傾向はなく、一部の国では家禽のSalmonella Enteritidisが増加した。サルモネラ属菌が最も多く見つかった食品は家禽の肉であった。 エルシニア症 2003年、人間の患者は9,399人報告され、食品では主に豚肉から検出された。 ブルセラ症 2003年、EU加盟国13国およびノルウェーで合計1,094人の患者が報告された。2002年の2,386人から大幅に減少し、特にギリシャ、ポルトガルおよびスペインで顕著である。ブルセラ症の非発生国と認められている国での患者は、輸入食品によると考えられる。フランス、ギリシャ、イタリア、アイルランド、ポルトガルおよびスペインは、ウシ、ヒツジ、ヤギのブルセラ症の非発生国とは認められていない。ウシのブルセラ症について、管理プログラムが行われている地域において共通の傾向はない。ヒツジとヤギについては、イタリア、スペインおよびポルトガルで減少傾向が続いている。 ペロ毒素産生大腸菌(VTEC) 2003年、VTEC感染患者が減少した。EUおよびノルウェーで、VTEC感染患者または溶血性尿毒症症候群(HUS)の患者2,607人が報告された。一部の国ではウシと人リスティア症 2003年のEUおよびノルウェーの患者は1,048人であった。低い濃度のListeria monocytogenesが様々な調理済み食品から検出された。 トリヒナ症 EUおよびノルウェーから合計56人の患者が報告された。さらに、トリアブおよびリトアニアからそれぞれ22人、19人の患者及び少数の動物での発症例も報告された。 狂犬病 5か国から動物の狂犬病が報告され、ドイツでは減少した。2003年、人間の患者はなかった。 ウシ結核 スペイン、イタリア、ギリシャ、アイルランドおよびポルトガルで根絶プログラムが行われた。感染した群れの比率の範囲は、ポルトガルの0.09%からアイルランドの6.9% http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050528.asp#4
2005-20	1	スロベニア	Eurosurveillance	スロベニアでVTEC E. coli O145感染により溶血性尿毒症症候群を起こした死亡例 2005年8月8日、スロベニアのKranjで、ペロ毒素産生大腸菌(VTEC) O145に感染した生後22カ月の女児が溶血性尿毒症症候群による心筋炎で死亡した。検体からE. coliが検出され、血清型はO145であった。2軒の肉屋から食肉と水7サンプルが採取され、ほとんどからE. coliが検出されたが、O145ではなかった。女児に渡航歴はなく、接触した人は極めて少なかった。女児の家庭が使用していた水道からE. coliは検出されなかった。動物は飼育していないが、女児は頻りにネコと接触していた。女児の発症数日前に肉屋から挽き肉を購入しており、これが感染源である可能性が高いと考えられているが、この挽き肉の残品はない。今のところ、他の患者との関連性は確認されておらず、家族内で他に症状を呈した者はいない。 過去5年間、スロベニアのE. coli O145感染患者は18人のみであった。しかし、E. coli O145の検査を行う検査室が少ないため、実際の患者数はこれより多い可能性がある。Enter-netのデータによると、この血清型は一般的ではない。2000〜2004年のEnter-netのVTECデータベースに報告された9,358人のうち、E. coli O145感染は224人(2.4%)であった。O157感染患者の多い英国とアイルランドのデータを除外すると、ヨーロッパ本土で報告される血清型のうちO145は第4位で、5,123人中224人(4.4%)である。現在のデータベースにスロベニアのデータは含まれていない。 VTEC株のO157以外の血清型はあまり検査が行われていないため、確認されないことが多いと考えられる。しかし、O157以外の感染は罹患と死亡の重要な原因となりうるため、より広範な検査を行うべきであるとしている。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050915.asp#2
2004-23	1	アメリカ	Promed	E.coli感染患者さらに103人増加(米国) November 8, 2004 ノースカロライナ州のE.coli O157感染患者は、さらに103人増えた。確認されたのは11月6日までに31人である。感染源として最も疑わしいのは、動物に触れられる動物園であり、多数の小児が感染している。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:10170777677429612959:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27147
2003-12	1	イギリス	Health Protection Agency	刑務所でのO157集団感染 29 August 2003 リバプールの刑務所でE. coli O157 phage type (PT) 8による集団感染が起き、8月13〜22日の間に32人から菌が検出された。症状は軽く、入院患者はいない。牛乳の汚染が疑われているが調査中。 http://www.phls.org.uk/publications/cdr/pages/news.html#ecoli
2004-16	1	イギリス	Health Protection Agency	ロンドンの北でShigella sonneiのアウトブレイク Outbreak of Shigella sonnei in north London Greater Manchester州で、5月と6月に、複数の家族にShigella sonnei症例が確認された。7月初旬、幼稚園で小児20人と職員5人が感染、現在は小学校でも患者が見つかっている。これまでに、19人の感染者が培養によって確認された。分離された10株のうち検査結果の得られた7株は全てShigella sonneiであり、ファージタイプと抗菌薬耐性も同じであった。E. coli O157感染患者数人も報告された。 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#sonnei
2004-25	3	イギリス	Health Protection Agency	DEFRAによる2003年の人畜共通伝染病報告 Zoonoses report 2003 published by DEFRA 英国環境・食糧・農村地域省Department for Environment, Food and Rural Affairs (DEFRA)が2003年の英国の人畜共通伝染病年次報告、"Zoonoses Report UK 2003"を発行した。これは、人畜共通伝染病に関する情報をまとめたもので、人間、食品および動物の状況に関する情報を提供し、食品由来ならびに水由来人畜共通伝染病、動物の報告人畜共通伝染病、その他の人畜共通伝染病に重点が置かれている。 Campylobacter感染症は、1998年の65,000人が2003年には49,050人と引き続き減少していた。市中での実際の感染率とカンピロバクターサーベイランスへの報告数の割合は約8:1と推測され、このことから2003年はCampylobacter感染患者が約400,000人であったと考えられた。全体のSalmonella感染患者数は引き続き減少しているが、英国全土でSalmonella Enteritidis非PT4が増加したため、S.Enteritidis全体の患者数がわずかに増加していた。Salmonella Typhimuriumは、イングランドとウェールズでわずかに増加したため、全土での患者数が増加した。 2002〜2003年、北アイルランド、イングランドおよびウェールズでペロ毒素産生E.coli (VTEC) O157の患者が少し増加したが、スコットランドでは減少した。2003年、ラバで確認されたVTEC O157感染患者は874人で2002年(852人)よりわずかに増加した。1995年まで、英国全土でVTEC O157感染患者は増加傾向にあったが、その後は毎年約1,000人と変動がない。 Cryptosporidium感染症は、2002年の3,663人から2003年は6,626人と増加したが、2000年の7,083人より少なかった。BSEが確認された英国の牛は、2002年が1,039頭、2003年が547頭と減少している。 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#zoonoses
2005-13	1	イギリス	Promed	E.coli O157(北アイルランド) 8 June 2005 4歳から19歳の生徒76人が在籍する学校でE.coli O157感染患者1人が確認され、さらに1人が疑われている。学校が閉鎖されて調査中であるが、感染源はまだ特定されていない。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:628938679500510042:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,29224

2005-18	1	イギリス	Eurosurveillance	トルコ南西部から帰国したスコットランド人旅行者のE.coli集団感染。2005年7月～8月 2005年7月25日以来、トルコから帰国したスコットランド人旅行者からE.coli感染の症例10人、疑い例5人が報告された。8人からの分離株がPT8と確認され、このうち7人がベロ毒素産生VT1およびVT2の遺伝子を保有するPT8であった。15人中7人はトルコ南西部Mugla県にあるMarmaris, Icmeler, Turunc (10km範囲内)、3人は40km離れたPerit, DalamanとAlanyaに2人ずつ、および1人がGumbetに滞在していた。発症日は7月15日から8月4日であった。南西トルコへ旅行したこと以外に患者間に共通点は見あたらなかった。 8月15日、Enter-net(http://www.hpa.org.uk/hpa/inter/enter-net_menu.htm)加盟国には警告が発せられ、8月16日にはヨーロッパ早期警告・対応システムを通じてEU各国に報告された。英国の旅行者者連盟にも通知された。 スウェーデンから、Marmarisに滞在して7月8日に発症したE.coli O157感染者1人がEnter-netに報告され、その分離株はeae遺伝子を保有し、VT1およびVT2を産生した。英国で比較的に類似したE.coli O157感染者が確認され、旅行との関連性を調査中であるが、多くのヨーロッパ諸国では夏季にE.coli O157感染が増加する。ヨーロッパではこれまでに旅行者のE.coli O157集団感染が報告されたが、旅行による感染についてはほとんどデータがない。今のところ、患者間の関連性は確認されていない。トルコの公衆衛生担当機関にも警告が発せられ、トルコ、特に南西部への旅行に関係した患者が確認された場合は、スコットランド保健保護局(Health Protection Scotland)への報告が要請されている。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050818.asp#2
2005-20 2005-21	1	イギリス	Eurosurveillance	South Wales valleysの学校でベロ毒素産生E. coli O157 (VTEC O157)感染アウトブレイク 2005年9月16日、ウェールズから血性下痢患者9人が報告された。現在、患者は56人になり、このうち12人はベロ毒素産生E. coli O157 (VTEC O157)感染が確認された。発症日は9月10日から20日で、最初の患者集団のうち、1人を除く全員が26の学校で食事を喫した生徒で、成人の患者は学校給食の管理者であった。生徒の60%が学校の食事を喫していること、患者が様々な学校に広がっていることから、疫学調査では学校で提供された食品に重点が置かれた。 ウェールズの1年間のVTECの患者数は約30人で、今回の患者数はそのほぼ2倍である。調理済み食品(学校において加熱されるものの対比として)の除去、ヒートショックを防ぐための教育活動が行われている。製品回収に関してはFSAの記事参照。 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#0157 40校以上の学校で起こったベロ毒素産生E. coli O157感染アウトブレイク、ウェールズ南部、2005年9月 Outbreak of verotoxin producing E. coli O157 infections involving over forty schools in south Wales, September 2005 ウェールズ南部から、2005年10月3日までにベロ毒素産生E. coli (VTEC) O157感染者157人が報告された。患者の定義は、9月に出血性下痢を起こした者、または核便検体からの分離菌がVTEC O157と推定された者とした。97人にVTEC O157が確認され、1人はファージタイプ32でベロ毒素 VT2を産生したが、ほかはすべてPT21/28、VT2であった。男性67人、女性90人で、65% (157人のうち102人)が学齢の小児であった。発症日は9月10～30日、40以上の学校から患者が報告され、5歳の男児1人が死亡した。 アウトブレイクと学校給食に提供された加熱済み肉との間に関連性が示唆された。患者は多数の学校にわたっているが各学校の患者は少数であることから、配達された製品の汚染は低レベルで、後に二次感染が起こったと考えられる。9月17日に発症した初期患者18人のうちの10人に対して9月16～20日の間に調査を行い、全員が学校の食堂で昼食を食べたと述べたのに対し、学校の名簿からランダムに選択したコントロール群では13人中8人であった。全体として影響を受けた地域スライスされた加熱済み肉の3サンプルからE. coli O157が分離された。分離株はPT21/28、VT2であることが確認され、PFGEによる検査が行われた。2サンプルの増9月19日から、学校から調理済み食品が回収され、ヒートショックを防ぐために学校は閉鎖され、調査が続いている。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/051006.asp#1
2005-25	2	イギリス	Health Protection Agency, U.K.	イングランドにおけるベロ毒素産生Escherichia coli O157 PT8感染の増加 イングランドで、2005年10月1日から11月15日までにヒトの感染患者47人からベロ毒素産生E. coli (VTEC) O157 PT8が分離された。2004年同時期は14人で、ファージタイプとしてPT8は2番目に多く、分離されたVTECの23%を占めた。 今年の患者のフォローアップ調査により、8人が外国旅行由来で5人は二次感染、3人が無症状であったことが判明した。その他31人の一次感染者のうち、19人が20歳未満であった。19人が女性、9人が男性、3人が性別不明であった。年齢の中央値は14歳で、範囲は0歳から75歳、25人の発症日が9月4日から11月7日であった。患者は英国中に分布しており、ウェールズを除く各地域から報告が行われた。他のヨーロッパ諸国でこのファージタイプの患者の増加は認められていない。8人の聞き取り調査が行われたが、感染源と考えられる共通事項は特定されなかった。PFGEを実施中で、さらに他の調査が行われる予定である。
2004-16	1	カナダ	Health Canada	E.coli O157:H7による牛ひき肉製品回収 July 26, 2004 検査によりE.coli O157:H7が見つかったため、7月1～7日に販売されたMarché André Martel Inc.の牛ひき肉製品を回収している。現在まで、80歳の女性1人が死亡し、5人が入院している。 http://www.hc-sc.gc.ca/pphb-dgspsp/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2004/nb3004_e.html
2004-24	1	カナダ	Public Health Agency of Canada	アイスホッケーの夏キャンプでのEscherichia coli O157:H7によるアウトブレイク 2004年7月19日、Sudburyの小児科医が、血便患者1人とその患者と同じキャンプの参加者で同様の患者が他にもいるらしいことを報告した。調査により、ホッケーキャンプで7月12～16日にアウトブレイクが始まったことがわかった。原因はE.coli O157:H7で、感染源は7月11日に地元の小売業者から購入して7月16日に加熱不十分で提供されたハンバーガーであることがわかった。検査を行ったのは合計34人で、キャンプ関係者が27人、二次感染者が3人であった。小売業者の自主回収後、さらにキャンプに無関係の患者が4人見つかった。 http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/ccdr-mmtc/04vol30/dr3022e.html
2005-16	1	カナダ	Canadian Food Inspection Agency	E. coli O157:H7汚染の可能性により牛ひき肉を回収 July 22, 2005 E. coli O157:H7汚染の可能性により、CFIAとWestfair Food社が牛ひき肉を回収している。プリティッシュコロニア州で販売され、これまでに患者が2人報告されている。 http://www.inspection.gc.ca/english/corppaff/recarapp/2005/20050722e.shtml
2005-8	1	カナダ	Promed	未殺菌乳によるE.coli O157:H7感染(カナダ) 11 April 2005 カナダ、オンタリオ州で未殺菌乳によるE.coli O157:H7感染患者3人が出たため、4月11日、未殺菌乳を飲まないよう注意が呼びかけられた。未殺菌乳の販売は禁止されているため、調査が行われている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15954808185024291449::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,28651
2005-20	1	スウェーデン	Eurosurveillance	レタスによるEHEC O157のアウトブレイク、スウェーデン、2005年8～9月 2005年8月16日から9月10日までの間に、西海岸(Halland郡とVastra Gotaland郡)で120人が腸管出血性大腸菌(EHEC) O157 VT2に感染し、PFGEによって優勢な株が明らかとなった。患者の2/3は女性、小児が数人、7人が溶血性尿毒症症候群を発症した。同時期に国内の他地域からも同じ株に感染した患者が数人報告された。 疫学調査によってアイスバーグレタスとの関連性が示唆され、症例対照研究によってレタスの摂取と疾患のオッズ比が13となり関連性が示唆された。このレタスの生産業者は、灌漑に小川の水を使用していた。 レタス、水および環境サンプルに対し細菌株の調査が横行されている。9月9日にレタスは回収され、9月10日以降、新たな患者は出ていない。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050922.asp#1
2005-23	1	フランス	Eurosurveillance	ビーフバーガーによるE. coli O157:H7感染アウトブレイク、フランス 2005年10月24日から11月2日までに、フランス南西部で溶血性尿毒症症候群(HUS)患者13人及び血性下痢を呈するベロ毒素産生大腸菌急性胃腸炎(VTEC-GEA)の疑い患者13人が確認された。発症日は10月5～29日、男性が14人、女性が12人、年齢は15カ月から49歳で24人(92%)が9歳以下であった。HUS患者13人は15カ月から9歳の小児であった。死亡者はない。これまでに10人からE.coli O157:H7感染が確認され、3人からの分離株が遺伝子stx1, stx2及びeae陽性であった。28名の患者すべてが"E.Leclerc"スーパーマーケットチェーンで購入した"Chantegrill"ブランドの冷凍ビーフバーガーを喫食し、これが唯一の共通食であった。患者自宅の残品及びスーパーの在庫のビーフバーガーからE.coli O157:H7が検出され、stx1とstx2陽性であった。また汚染されたロットがスペインとポルトガルにも輸出されていた。さらなる検査、特にeae遺伝子の有無について検査中である。 10月29日、3か国のスーパーマーケットから同ブランドのビーフバーガーが除去され、30日には該当するパッチの製品が回収された。該当製品を購入した消費者の95%が特定され、喫食しないよう通知された。また、ヨーロッパ早期警告・対応システムとEnter-netを通じて警告が発せられた。牛肉の由来を特定するための追跡調査、製造工場の調査、正確な輸出量の調査が行われている。 今回は、フランスでは初めてのコミュニティ規模のE.coli O157感染のアウトブレイクである。フランスのHUS患者のサーベイランスは1996年に始まっており、年間70～100人の患者が報告され、このうち57%が検査室でVTEC感染が確認された。検査室で確認されたHUS患者の80%がE.coli O157に感染していた。最近フランスで行われた症例対照研究により、小児のHUS患者の感染源の53%を加熱不十分のビーフバーガーが占めており、大きなリスク因子であることが確認された。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/051103.asp#1

2005-25	1	フランス	Institut De Veille Sanitaire	フランス南部のE. coli O157:H7集団感染者 Actualization at November 22, 2005(11月22日までの情報更新) フランス南部で11月22日までE. coli O157患者70人が報告され(このうち確認患者は61人)、感染源としてChantegri®の刻みステーキが特定された。17人が溶血性尿毒症候群(HUS)を発症し、血性下痢患者は29名、非血性下痢患者は23名であった。 17人のHUS患者の発症日は10月9～30日であり、うち10人が男性で、16人が2～9歳、1人が49歳で、全員からE. coli O157感染が確認され、入院し、発症前7日間にChantegri®の冷凍刻みステーキを喫食していた。 29名の血性下痢患者は、全員がChantegri®の刻みステーキを喫食していた。29人のうち15人が男性、24人が15カ月から11歳、5人が35～98歳、発症日は10月5日～11月1日であった。19人が入院し、検査を行なった21人にE. coli O157感染が確認された。 非血性下痢患者で、かつE. coli O157感染が確認された23名の患者のうち5人はHUS患者または血性下痢患者の家族であった。18人の発症日が10月19日～11月3日、23人のうち13人が男性で、6人が17歳から35歳、17人が18カ月から13歳であった。 患者70人は55家族に属し、27家族が喫食したステーキのバッチはL231とL234であった。11家族から採集した60サンプルのうち50サンプルから、1/g～5/gの範囲でE. coli O157が分離された。分離株の大部分がstx1+, stx2+, eae+で、これより少ないがstx1+, stx2-およびeae+もあった。異なるバッチの残り10サンプルからは分離されなかった。製造施設等からの12検体もE. coli O157に汚染されていた。これらの分離株と患者からの分離株との比較が行われている。 http://www.invs.sante.fr/display/?doc=presse/2005/le_point_sur/shu_231105/index.html
2005-11	1	米国	Promed	E. coli O157感染(米国) 21 May 2005 インディアナ州Allen郡のデイケアセンターで、少なくとも小児9人がE. coli O157:H7に感染した。これまでのところセンターの食品と水の検査結果はすべて陰性で、さらに調査が行われており、ヒートショック感染が疑われている。 米国では、年間のE. coli感染患者は約73,000人で、死亡者は61人である。Allen郡の年間平均患者は2人であるが、2000年は13人であった。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:2634729522501126708:NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29002
2005-12	1	米国	Promed	E. coli O157 (米国) 31 May 2005 5月17日から20日の間にオレゴン州Yamhillのキャンプに参加した人のうち、5月27日までに少なくとも10人のE. coli O157感染患者が確認された。感染源は現在調査中である。スタッフと5月20日に参加した人からは患者の報告はない。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:17537000151537663564:NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29133 E. coli O157続報(米国) E. coli O157, Religious Camp - USA (Oregon) (02) 2 June 2005 5月31日に発表されたオレゴン州のキャンプでのE. coli O157感染の感染源は、汚染水である可能性が高いと報告された。North Yamhill Riverから引いている水の処理システムが最近の豪雨により汚染されたと考えられている。50人以上が感染し、患者からはE. coli O157とカンピロバクターが確認された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15048034327834244974:NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29169
2005-21	1	米国	FDA	E. coli O157:H7 Doleの包装済みサラダに警告 October 2, 2005 ミネソタ州でE. coli O157:H7の患者が11人報告された。FDAは、関連があるとみられるDole社の包装済みサラダを摂取しないよう警告を発し、Dole社がこれを回収している。対象となるのは、3種類のブランド名の製品で、"best-if-used by"で始まる日付ラベルと、B250で始まる製造コードが付いている。 http://www.fda.gov/bbs/topics/news/2005/new01239.html
2005-26	1	米国	FDA	FDAが未殺菌乳を飲まないよう警告 December 16, 2005 ワシントン州から未殺菌乳によるE. coli O157感染患者が8人報告され、FDAは未殺菌乳を飲まないよう警告を発した。ODCによると、米国の未殺菌乳または未殺菌乳チーズによる患者は2001年には300人以上、2002年はほぼ200人であった。加熱殺菌により、乳の栄養価を大きく変えることなく未殺菌乳やその製品中に存在するE. coliのほか結核菌、ジフテリア、ポリオ、Q熱、サルモネラ、連鎖球菌性咽頭炎、ショウコウ熱、腸チフスなどの病原菌を効果的に死滅させることができる。米国では法律により州間を輸送される乳はすべて殺菌が義務付けられている。 http://www.fda.gov/bbs/topics/NEWS/2005/NEW01278.html
2005-7	2	米国	CDC	1982～2002年の米国におけるEscherichia coli O157:H7アウトブレイクの疫学 米国のEscherichia coli O157:H7感染患者は毎年73,000人にのぼるため、1982年から2002年までのE. coliアウトブレイクの見直しが行われた。期間中に報告されたE. coli O157アウトブレイクは、49州で350件、患者8,598人、このうち入院1,493人(17%)、溶血性尿毒症候群354人(4%)、死亡者40人(0.5%)であった。感染経路は、食品由来が依然として多く183件(52%)、不明74件(21%)、ヒートショック感染50件(14%)、水由来31件(9%)、動物との接触11件(3%)、ラゴ由来1件(0.3%)であった。食品由来アウトブレイクのうち牛ひき肉によるものが最も多く75件(41%)、38件(21%)が農産物であった。小児の施設では、ヒートショック感染が最も多い。水由来は飲料水とレクリエーションによる報告が続いており、動物との接触によるものは増加傾向にある。 CDCに報告されたアウトブレイクは実際より少なく、時期や場所によって報告法も統一されていないため、傾向を解釈するには注意が必要である。1993年以降に報告が増えているが、これは診断や検査技術の向上も一因である。このような調査により疾患の傾向について確実な結論を引き出すことはできないが、適切な対策の選択、現在の予防戦略の再評価には有用である。 http://www.cdc.gov/ncidod/EID/vol11no04/04-0739.htm
2004-16	1	アメリカ	Promed	E. coli メロン(米国) July 22, 2004 モンタナ州Yellowstone Cityのデイケアセンターで、小児6人がE. coli O157:H7に感染し、感染源はカンタロープメロンとみられている。また、別のデイケアセンターで小児8人がに感染し、このうち3人にはE. coliも検出された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:14530489893291474608:NO::F2400_P1001_BACK_PAGEF2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26121
2006-1	2	EU	EFSA	2004年のEU域内における人畜共通感染症の病原体及び抗菌薬耐性の傾向と感染源に関するEFSAの報告書 2004年、EU 25カ国の人畜共通感染症のアウトブレイクは6,860件、患者は42,447人で、サルモネラ症とカンピロバクター症が最も多かった。サルモネラ症の報告患者は192,703人、100,000人当たり42.2人で、2003年より22%増加した。感染源は鶏肉と豚肉が多い。カンピロバクター症の報告患者は183,961人、100,000人当たり47.6人で、2003年より32%増加した。主な感染源は鶏肉で、とさつ時には鶏肉の80%以上がカンピロバクター菌を保有していた。 リステリア症の報告患者は1,267人、100,000人当たり0.3人で、2003年とほぼ同じであった。VTEC感染の報告患者は17カ国で4,143人、100,000人当たり1.3人で増加した。Yersinia症の報告患者は10,000人以上であった。ヒト結核症の報告患者はデータが不完全で推測が難しいが、報告されたのは83人であった。 死亡者はリステリア症が最も多く、107人であった。 一般に、寄生虫性感染患者は病原菌性より少なく、トリナ症患者は300～400人、エキノコックス症もほぼ同数、トキソプラズマ症は約2,000人であった。狂犬病は2人であったが両者ともEU外での感染であった。 http://www.efsa.eu.int/science/monitoring/zooses/reports/1277_en.html
2006-6	2	デンマーク	Statens Serum Institut	2005年の人畜共通腸内感染症(デンマーク) デンマークでは、Campylobacter jejuni/coli感染が最も多い人畜共通感染症である。2005年、検査機関で確認された患者は3,671人(100,000人当たり68人)で、最近3年間あまり変化がない。 サルモネラ症は、1997年以来全体に減少しているが、2005年は2004年より17%増加し、1,775人(100,000人当たり33人)であった。2004年と比較すると、S. Enteritidisが18%増加(642人でサルモネラ症の36%)、S. Typhimuriumが22%増加(565人でサルモネラ症の32%)で、他の血清型は8%増加(568人)であった。2005年も2004年と同様、S. Enteritidisが最も多く、次はS. Typhimuriumであった。 Yersinia enterocolitica感染患者は241人(100,000人当たり4.4人)で、2004年より6%増加した。 ペロ毒素産生E. coli(VTEC)感染患者は158人(100,000人当たり2.9人)で、2004年より7%増加した。O157グループの感染患者は25人(16%)であった。溶血性尿毒症候群患者は6人で、このうちVTEC感染が確認されたのが4人、可能性が1人であった。年齢別発生は2004年とあまり変化がみられなかった。 VTECとY. enterocolitica感染のアウトブレイクはなく、S. Typhimurium感染のアウトブレイクが数件、カンピロバクター症の大規模なアウトブレイク1件が報告された。 細菌性腸内感染症に関する詳細な情報がhttp://www.ssi.dk/germ/から入手可能である。 http://www.ssi.dk/sw38271.asp

2006-1	1	アイルランド	Eurosurveillance	大規模なE. coli O157感染アウトブレイク、アイルランド、2005年10月～11月 2005年10月15日から11月30日までに、アイルランド中西部の農村でE. coli O157 PT32ペロ毒素2陽性感染患者18人(うち9名は無登録託児所に通う小児)が確認された。同国で報告されるVTECでは、ペロ毒素産生E. coli (VTEC) O157が最も多い。今回はアイルランドで最大のVTEC感染のアウトブレイクであり、患者の半数が無症候であった点が通常と異なる。小児2人が溶血性尿毒症症候群で入院し、小児1人に腹膜透析が必要となった。最近、人口340,000人のこの地域ではVTEC感染患者が毎年6～10人発生している。 疫学的調査の予備結果により、私的水道グループ(GWS)の水が感染源と考えられている。GWSは、公共水道ではないが、給水設備を共有する多くの家庭によって構成されており、アイルランドの家庭の6%がこのGWSの水を利用している。 アウトブレイクに関与したGWSの水源地近くではウシが飼育され、排泄物もみられた。1つの牛群からE. coli O157ペロ毒素2が検出され、さらに詳しく調査している。託児所の自主閉鎖や患者の隔離が行なわれ、GWSの水は煮沸するよう助言された。今回のアウトブレイクは、GWSの水質基準を維持することの重要性、親が託児施設の管理状況を知っておくことの必要性が強調された。登録された託児所は基本的な最低衛生条件を満たし、また定期的に地域の衛生部局の監視を受けている。また、農村地域にある汚染されやすい水により、罹患率の高い大規模なVTECアウトブレイクが起こる可能性があることを示している。 http://www.eurosurveillance.org/ViewArticle.aspx?ArticleId=1222
2006-2	2	イギリス	Health Protection Scotland	2005年、E. coli O157陽性患者は172人が報告された。2004年より37人(18%)減少した。しかし、2002年から2003年は減少したものの、2003年から2004年は増加したように、患者発生に変動がみられることから、予防策を継続する必要性が示唆されている。100,000人当たりの患者は2005年が3.4人、2004年が4.1人であった。

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(リステリア)

年次一	※ 番号	国	出典	詳細
2006-1	2	EU	EFSA	2004年のEU域内における人畜共通感染症の病原体及び抗菌薬耐性の傾向と感染源に関するEFSAの報告書 2004年、EU 25カ国の人畜共通感染症のアウトブレイクは6,860件、患者は42,447人で、サルモネラ症とカンピロバクター症が最も多かった。サルモネラ症の報告患者は192,703人、100,000人当たり42.2人で、2003年より22%増加した。感染源は鶏肉と豚肉が多い。カンピロバクター症の報告患者は183,961人、100,000人当たり47.6人で、2003年より32%増加した。主な感染源は鶏肉で、とさつ時には鶏肉の80%以上がカンピロバクター菌を保有していた。 リステリア症の報告患者は1,267人、100,000人当たり0.3人で、2003年とほぼ同じであった。VTEC感染症の報告患者は17カ国で4,143人、100,000人当たり1.3人で増加した。Yersinia症の報告患者は10,000人以上であった。ヒト結核症の報告患者はデータが不完全で推測が難しいが、報告されたのは83人であった。 死亡者はリステリア症が最も多く、107人であった。 一般に、寄生性感染患者は病原菌性より少なく、トリヒナ症患者は300~400人、エキノコックス症もほぼ同数、トキソプラズマ症は約2,000人であった。狂犬病は2人であったが両者ともEU外での感染であった。 http://www.efsa.eu.int/science/monitoring_zoonoses/reports/1277_en.html
2006-6	2	イギリス	Health Protection Scotland	2005年のスコットランドの胃腸疾患と食品由来疾患 <i>Listeria monocytogenes</i> <i>L. monocytogenes</i>感染は患者数が比較的小さいが、重篤さと致死率の高さが重要である。2005年、<i>L. monocytogenes</i>患者28人と他の<i>Listeria</i>属菌の感染患者4人が報告された(2004年は18人)。患者の年齢は0~95歳、66%が65歳以上であった。 <i>Shigella</i> 2005年の<i>Shigella sonnei</i>患者は71人で、2004年の70人とほぼ同じであった。2005年の患者の34%は外国旅行が原因であり、<i>Shigella sonnei</i>感染のアウトブレイクはなかった。現在のアウトブレイクサーベイランスシステムが設立されて以来、アウトブレイクは4件報告され、最後は2002年であった。<i>Shigella flexneri</i>感染患者は2005年が35人(51%は外国旅行による)で、2004年は31人であった。また、<i>S. boydii</i>感染患者が9人、<i>S. dysenteriae</i>が1人報告された。 <i>Yersinia</i> 2005年の<i>Yersinia</i>患者は34人で、2004年の64人から30人(47%)減少した。2005年の患者の82%が<i>Yersinia enterocolitica</i>であった。1996年にアウトブレイクサーベイランスシステムが制定され、2003年にアウトブレイク1件が報告された。 <i>Scorbrotoxin</i> <i>Scorbrotoxin</i>中毒は、サバ科の魚の喫食が主な原因である。<i>Proteus</i>や<i>Klebsiella</i>などの腐敗菌がヒスタミンなどを分解して原因物質を産生し、中毒を起こす。アウトブレイクは1996年に4件報告されたが、2005年はなかった。 http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2006/0609.pdf
2003-17	2	オーストラリア	FsNet	食品媒介感染症のサーベイランス(オーストラリア) OzFoodNetのレポートから、2002年は8種の細菌性疾患患者23,434人の報告があった。このうち14,716人がカンピロバクター症、7,917人がサルモネラ症で依然上位を占めている。サルモネラ感染率が最も高いのは0~4歳男児で、5~9歳層も増えた。カンピロバクター感染も0~4歳男児に多い。2002年のリステリア感染は、高齢者、免疫低下者が9%を占め、最も多いのは60歳以上の男性であった。集団発生の病原菌として最も多いのはサルモネラで(28%)、そのうちTyphimuriumが81%を占めていた。カンピロバクター症の集団発生は1件、ウェルシュ菌によるものは8件であった。 http://131.104.232.9/fsnet/2003/11-2003/fsnet_nov_5-2.htm#story7
2005-26	1	オーストラリア	Listeria Cases under Investigation	リステリア症患者を調査中 Listeria Cases under Investigation - 08 December 2005 リステリア症患者4人の調査が行われている。2人は死亡し、2人は回復中である。死亡した2人と回復中の1人が免疫機能低下の患者であった。現段階では、死亡した2人の死因にリステリアがどの程度関与したかは不明である。リステリア菌は生の食品に存在し、75℃に加熱すれば死滅するが、加熱後の食品に存在することもある。 Food Standards Australia New Zealand (FSANZ)は、妊婦、胎児、新生児、高齢者、免疫機能低下者および免疫機能を抑制する治療を受けている人々がハイリスクであるとしている。また、ハイリスクの食品として、次のような食品を挙げている。 加熱済みの冷蔵肉食品類(未包装やスライス済み包装肉(ハムなど)と発酵肉(サラミなど)) 加熱済みの冷蔵鶏肉食品類 サラダと果実類(カット済みまたは皮むき果実と野菜サラダ、病院で調理された果実と野菜サラダ) パテ類(パテ、レバーソーセージ、肉のスプレッドなど) 生と冷蔵のReady to eat食品 生の水産食品(カキ、刺身、寿司など) 薫製食品 殻を取った(加熱済み)エビ(エビのカクテル、サンドイッチ、エビサラダなど) ソフトチーズと表面熟成チーズ ソフトアイスクリーム 未殺菌の乳製品 http://www.health.sa.gov.au/Default.aspx?tabid=52&mid=449&ct=ViewDetails&ItemID=1443&PageIndex=0
2003-17	1	カナダ	International Food Safety Authorities Network	ケベック州におけるリステリアモノサイトジェネスによる初めての集団感染発生事例報告 http://www.hc-sc.gc.ca/pphb-dgsspp/publicat/ccdr-mmtc/03vol29/index.html ケベック州の調査により、<i>Listeria monocytogenes</i>による感染が増加していることがわかり、検出された特徴が調査された。2002年4月~12月に調査したリステリア症患者からの分離株51株のうち17株がpulsotype85であった。最初に患者が発生したのは4月、平均年齢は43歳。新生児3人が含まれており、これを除くと平均年齢は56歳である。男性より女性に多い。17人のうち11人が入院。感染源はチーズであり、原因は工場の改修時に混入した土であった。
2005-13 2005-14	1	スイス	Promed	リステリア症(スイス) 8 June 2005 Neuenburg州で過去2週間に高齢者2人がリステリア症で死亡した。また、女性2人が流産、6人が受診した。感染源である同州で製造されたTommeチーズ(生乳の白チーズ)に注意が呼びかけられた。現在、患者10人が入院し、この1週間に5人の感染がわかった。 1987年にスイスのフランス語圏でVacherin Mont d'Orチーズによりリステリア症が流行し、31人が死亡した。死亡者の少なくとも半分は胎児と新生児であった。フランスでは、1992年にリステリア症が流行し、60人が死亡した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:9622054183213058894:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE:F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000.29231 リステリア症(スイス)続報 Listeriosis, Fatal - Switzerland (Neuenburg) (02) 24 June 2005 Neuenburg州で、2005年6月16日現在の<i>Listeria monocytogenes</i>感染患者38人であることが報告された。2004年同時期は16人であった。2005年4月中旬からの同州の患者は10人で、5月18日から6月4日の間に7人が見つかった。8人が重症で入院し、このうち3人が死亡、妊婦2人が流産した。分離した10菌はすべて血清型1/2aであった。 患者は殺菌乳から作られたソフトチーズを摂取していた。このチーズの生産は停止され、流通していた製品は回収された。6月8日、チーズのサンプルから<i>L. monocytogenes</i>陽性の結果が得られ、血清型が1/2aであることも確認された。また、同じ製造業者による他の製品にも<i>Listeria</i>汚染が確認された。現在、臨床サンプルとチーズのサンプルの分子生物学的分析が行われており、1週間以内に結果が出る予定である。 <i>Listeria</i>は環境中に幅広く存在し、また冷蔵温度で長期間保管された食品中で増殖することができる。乳製品や肉製品によって<i>Listeria</i>に感染することはあるが、殺菌後に汚染が起こることもあるため、今回のアウトブレイクは、殺菌乳が必ずしも安全とはいえないことを示している。 http://www.promedmail.org/pls/askus/?p=2400:1001:17332076501909529456:NO:F2400_P1001_BACK_PAGE:F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000.29411

2005-12	2	ヨーロッパ	Eurosurveillance	2003年のヨーロッパにおける人畜共通伝染病の傾向 Trends in zoonoses in Europe, 2003 volume 10 issue 5, 26 May 2005 1994年より毎年、ヨーロッパにおける人畜共通伝染病の疫学データが報告されており、2003年版が発表された。European Community Reference Laboratory for the Epidemiology of Zoonosesがデータ収集シートとデータ報告表を作成し、適時変更されている。2003年以前の報告を規定したEuropean Council directive 92/117/EECは2003年に廃止され、人畜共通伝染病の病原体の監視に関するDirective 2003/99/ECと、サルモネラ属菌など食品由来疾患の病原体のコントロールに関するRegulation (EC) No.2160/2003に替わった。 サルモネラ症およびカンピロバクター症 2003年のEUでは、人間の畜共通伝染病としてサルモネラ症およびカンピロバクター症が最も多く、それぞれ約135,000人の患者が報告された。サルモネラ症患者は数年間減少傾向にあり、2003年は2002年より7%減少した。カンピロバクター症患者は長年増加した後、2002年は5%、2003年は9%減少した。動物のサルモネラ症有病率に特別な傾向はなく、一部の国では家禽のSalmonella Enteritidisが増加した。サルモネラ属菌が最も多く見つかった食品は家禽の肉であった。 エルシニア症 2003年、人間の患者は9,399人報告され、食品では主に豚肉から検出された。 ブルセラ症 2003年、EU加盟国13国およびノルウェーで合計1,094人の患者が報告された。2002年の2,386人から大幅に減少し、特にギリシャ、ポルトガルおよびスペインで顕著である。ブルセラ症の非発生国と認められている国での患者は、輸入食品によると考えられる。フランス、ギリシャ、イタリア、アイルランド、ポルトガルおよびスペインは、ウシ、ヒツジ、ヤギのブルセラ症の非発生国とは認められていない。ウシのブルセラ症について、管理プログラムが行われている地域において共通の傾向はない。ヒツジとヤギについては、イタリア、スペインおよびポルトガルで減少傾向が続いている。 ペロ毒素産生大腸菌(VTEC) 2003年、VTEC感染患者が減少した。EUおよびノルウェーで、VTEC感染患者または溶血性尿毒症症候群(HUS)の患者2,607人が報告された。一部の国ではウシと人リスティア症 2003年のEUおよびノルウェーの患者は1,048人であった。低い濃度のListeria monocytogenesが様々な調理済み食品から検出された。 トリヒナ症 EUおよびノルウェーから合計56人の患者が報告された。さらに、ラトビアおよびリトアニアからそれぞれ22人、19人の患者及び少数の動物での発症例も報告された。 狂犬病 5カ国から動物の狂犬病が報告され、ドイツでは減少した。2003年、人間の患者はなかった。 ウシ結核 スペイン、イタリア、ギリシャ、アイルランドおよびポルトガルで根絶プログラムが行われた。感染した群れの比率の範囲は、ポルトガルの0.08%からアイルランドの6.9% http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050526.asp#4
2005-23	2	ヨーロッパ	Eurosurveillance	ヨーロッパにおけるリスティア症のサーベイランス 2002年ヨーロッパ諸国のヒトのリスティア症のサーベイランスシステムについて調査を行った。調査を行った17カ国中、16カ国でサーベイランスシステムが稼働しており、国内リファレンスラボ(NRL)を有していた。14のNRLが少なくとも1つのタイピングを行っていた。少なくともNRLが標準法によるヒトリスティア菌のバルスフィールド電気泳動(PFGE)法によるタイピングを実施したい旨の意思表示をし、ヨーロッパにおいて、特にアウトブレイクを迅速に検出できるリスティア症のサーベイランスネットワークを構築することの公衆衛生上の重要性が認められた。報告されたリスティア症例の発生率は年間100万にあたり0.3~7.5例で、16カ国の平均報告例は人口100万人当たり3.4例であった。この幅はサーベイランスシステムの精度のばらつきによるものである。1991年から2002年までに9カ国で19の侵襲性リスティア症(Invasive Listeriosis)アウトブレイクにより526名の患者が報告された。また、4例のリスティアによる急性胃腸炎アウトブレイクが報告され、うち2例がイタリア(1993年の患者18名及び1997年の患者1,566名)、デンマークで1例(患者3名)及びベルギーで1例(急性胃腸炎患者2名及び侵襲性タイプ1名)であった。侵襲性リスティア症アウトブレイクの原因食品は、食肉製品(6件)、チーズ(5件)、魚介類加工品(3件)、バター(1件)で3つのアウトブレイクで原因食品が特定されなかった。一方、急性胃腸炎アウトブレイクの原因食品は汚染されたライス(米)サラダ及びコーンサラダが各1件、ベルギーの急性胃腸炎及び侵襲性リスティア症をともに起こしたベルギーのアウトブレイクはアイスクリームケーキが原因で、1件は原因食品が特定されていない。 http://www.eurosurveillance.org/em/v10n10/1010-225.asp

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(ノロウイルス)

年次一号	※ 番号	国	出典	詳細
2004-25	1	アイルランド	Promed	ノロウイルス(アイルランド) ダブリンの病院からノロウイルス感染者160人が報告され、14病棟が閉鎖されている。他にも45人が感染症状を呈している。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5488977210260694820::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27377
2004-16	1	アメリカ	Promed	ノロウイルス(米国) オレゴン州Blue Lakeの遊泳区域で100人以上が下痢と嘔吐を訴え、便検査でノロウイルスが検出された。
2004-18	1	アメリカ	Promed	原因多様の胃腸疾患 続報(米国) Gastroenteritis, Multiple Causes - USA (Ohio) (05) (06) August 27, 2004 August 28, 2004 Lake Erie's South Bass Islandで1,020人の患者が出たアウトブレイクに関し、数週間前の検査で2つの井戸の水がE. coli陽性であったことがわかったが、最近の検査では見つからず、E. coli陽性の患者はいない。さらに4つの公設井戸と少数の私設井戸がE. coli陽性であったが、汚染水が原因であるかどうかは分かっていない。19人の便検査の結果、14人がカンビロバクター、3人がノロウイルス、1人がサルモネラ、1人がジアルジア陽性であった。症状を訴えている者の95%が客であり、このうち84%が下痢、53%が嘔吐の症状を呈し、4%が受診している。現在、井戸の汚染原因も調査中である。8月26日には、オタワが患者1,020人を発表した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:14134781875047598324::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26527 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12564229851204200858::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26512
2004-23	1	アメリカ	Promed	ウイルス性胃腸疾患—ノロウイルス(米国) November 1, 2004 Norovirus, Las Vegas hotel - USA (Nevada) ハリウッドのホテルで、未確認のノロウイルス感染者250人が報告された。ほとんどが職員、一部が客である。ラボの正式な検査結果は出ていないが、状況からノロウイルス感染が示唆され、ホテルでは抗ウイルス剤を用いて消毒作業を行っている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:8031835597189161736::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,27078
2004-7	2	アメリカ	Promed	胃腸疾患最新情報 2004. (11) March 25, 2004 [1] 学校でノロウイルス発生疑いの疑い(米国) 3月18日以来米国ペンシルバニア州の学校で、生徒や職員が胃腸疾患を発症、3月23日には患者が800人へのぼり学校は閉鎖された。原因はまだ明らかではないが、ノロウイルスが疑われている。 [2] ホテルでノロウイルス発生(米国) 3月初旬にラスベガスのホテルで、ノロウイルスの集団発生があり、昨年12月以降の患者数が1,475人となった。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:7389761129567410588::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24854
2004-9	1	アメリカ	Promed	大学でノロウイルス発生(米国) ノロウイルスによる胃腸疾患が、2004年1月にノースカロライナ大学チャペルヒル校(UNC-CH)、3月にはノースカロライナ州立大学、また、最近Wake Forest大学で発生し、3月14日以来の患者は205人となった。この連続発生について関連性が疑われているが、まだ確認はされていない。UNC-CHについては、ダイニングホールのサラダが感染源であることがわかった。ノースカロライナ州立大学については感染源を一つに絞る決定的な証拠がなく、場所柄、一人一人感染が蔓延の最大の原因であるという結論が下された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12634560167815721519::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,25067
2004-24	3	イギリス	Health Protection Agency	イングランドおよびウェールズにおけるノロウイルスアウトブレイク:2003年と2004年 英国保健保護局(Health Protection Agency)のCommunicable Disease Surveillance Centre(CDSC)が、1992年以来、感染性腸管疾患(Infectious Intestinal Disease: ID)の一般的アウトブレイクに関する標準化データを収集している。ノロウイルスによるIDアウトブレイク発生数には変動があるが、一般に毎年130~250件である。1992年以降のイングランドとウェールズにおける発生には、二つのピークがあった。一つは、1995~1996年で368件、もう一つは686件の発生があった2002年で、新しい変異遺伝子グループII 4の出現と同時であった。 全アウトブレイクの79%は医療提供施設(病院と入居介護施設)で発生しており、次いでホテル(7%)、学校(5%)であった。医療施設のアウトブレイクには、顕著な季節性がみられ、冬季にピークがあったが、他の場所での発生ではこのような季節性は認められなかった。また、医療施設の場合は致死率が高く、他の施設よりアウトブレイクの期間が長い。人数は比較的小さな食品由来が少なかった。 南西イングランドの医療施設でのアウトブレイクを最近の調査では、63%でノロウイルスが確認され、主要原因であることを示している。2003年、ノロウイルスによるIDアウトブレイクは220件、2004年は10月までに148件が報告された。最も多かった地域は、2003年がNorth West, YorkshireおよびHumbursideで、2004年は現在までのところ、North East, YorkshireおよびHumbursideである。2003年に確認されたノロウイルスによるIDアウトブレイクの78%は医療施設で起きており、2004年は74%である。 感染経路は一人一人感染が最も多く、1992年以降ではこの経路が86%、食品感染が4%、食品感染後の一人一人感染が3%である。一人一人感染は、2003年が88%、2004年が87%である。 2004年9月~11月中旬、ノロウイルスによるIDアウトブレイクは33件で、2003年同時期とほぼ同じである。2004年の全データは暫定のものである。 http://www.hpa.org.uk/cdr/pages/news.htm#norovirus
2004-25	1	イギリス	Promed	ノロウイルス(スコットランド) Norovirus, hospitals - UK (Scotland) スコットランドのForth Valleyで、例年通り冬季の到来とともに幼稚園、学校、高齢者施設などでノロウイルス感染が発生している。
2004-26	1	イギリス	Promed	ノロウイルスの疑い(イングランド) Surrey地域の病院でノロウイルス感染のアウトブレイクが疑われ、6病棟が閉鎖された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:11083773101675368451::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,27413
2005-1	1	イギリス	Promed	ノロウイルス(イングランド) 12月24日~27日、Peterboroughのホテルで客39人がウイルス性胃腸疾患を発症し、ホテルが閉鎖された。また、Brettonの病院では、3つの病棟で患者45名、スタッフ24名が同一のノロウイルスに感染し病棟が閉鎖された。
2005-10	1	イギリス	Promed	ノロウイルス(イングランド)(4月9日) Dorsetのホテルで2度目の胃腸疾患のアウトブレイクが起こり、50人以上が症状を呈し、同ホテルは4月11日まで閉鎖されていた。原因はノロウイルスと考えられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:16760040377649242314::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,28792
2005-26	1	イギリス	Promed	ノロウイルス(英国) 12月9日、イングランド南西部Somersetの中学校で少なくとも生徒250人と職員20人がノーウォークウイルス感染による嘔吐と下痢症状を起こしていることが確認された。学校は消毒され、生徒の親には、回復後48時間は子供を自宅に留まらせるよう助言する手紙が送られた。保健所によると、アウトブレイクは学校以外の場所でも始まったと考えられている。当地域でウイルス感染者が発生した施設はこの学校のみである。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:371026377341183170::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,31327
2006-4	2	イギリス	Health Protection Scotland	胃腸疾患および食品由来感染症 Gastro-intestinal and foodborne infections 2005年、スコットランドで報告されたノロウイルス患者は1,552人で、2004年の1,321人より231人(17%)増加、100,000人当たり30.6人であった。また、ノロウイルスによるアウトブレイクは2005年に191件(2004年は139件)報告され、主な発生場所は病院と老人ホーム等の福祉施設であった。 ロウウイルス患者は1,602人で、2004年の1,775人より173人(10%)減少したが、2002年と2003年よりやや多い。しかし、1990年代に比べると少ない数を維持している。クリプトスポリジウム患者は709人であった。2004年の465人より52%増加したが、2004年は極めて少なかった年であり、2003年の患者数は600~800人という例年の平均内に収まっている。患者129人が発生したアウトブレイクでは、手洗い設備が不十分であった野生動物の干草が感染源と考えられた。 ジアルジア患者は197人で、2004年の188人から、最近10年で初めて増加した。リスクファクターとしては、シストに汚染されたおむつへの暴露、ヒタスの採取、及び水道水の採取が記録されていた。 http://www.show.scot.nhs.uk/scieh/PDF/pdf2006/0605.pdf

2005-4	1	ウルグアイ	Promed	ノロウイルス(ウルグアイ) 2月2日に首都モンテビデオの港に着いたクルーズ船2艘から、230人の急性下痢性疾患が報告された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1531947815655588106::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27999
2004-15	1	オーストラリア	Promed	ウイルス性胃腸疾患最新情報 2004 (23)(一部) July 16, 2004 オーストラリア、ニューサウスウェールズ州でノロウイルス感染患者6000人以上が報告され、警告が発せられた。患者の71%が施設の高齢者である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12653165160816238644::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26050
2004-16	1	オーストラリア	Promed	ノロウイルス(オーストラリア) ニューサウスウェールズ州オレンジ市で、ここ6〜8週間に400人以上が胃腸疾患と感冒様症状を訴えている。
2005-22	1	オーストラリア	Eurosurveillance	ケータリング食品によるノロウイルス感染アウトブレイク、オーストラリア、2005年9月 2005年9月6日、オーストラリア南部の電気製品工場で1,357人の従業員のうち120人が嘔吐や下痢を訴えた(発症率8.8%)。多くの従業員が同じ日に発症したので、単一の汚染源が示唆された。地元のケータリング業者がこの工場に食品を提供していた。予備調査により、ケータリング業者の従業員1人が9月4〜5日に胃腸疾患の症状を呈し、その間も手袋を使用せずにサンドイッチを調理していたことがわかった。また、調理師の1人が9月1日に、他の従業員も9月4日(1人)、6日(2人)、7日(1人)、8日(2人)に発症していた。 アウトブレイクの原因を特定するため、工場従業員に対するコホート調査が行われている。地域の食品検査機関が9月7日にケータリング業者を閉鎖し、消毒を勧告した。衛生対策が完了するまで1週間閉鎖され、病気の従事者は悪心、下痢、嘔吐が少なくとも48時間みられなくなるまでは職場に復帰しないことを要求された。排便検体の病原菌検査では全検体が陰性であった。9月12日、RT-PCR検査で19検体すべてがノロウイルス陽性であった。ケータリング業者の従業員からの分離株と工場従業員からのものは区別がつかなかった。 工場でのアウトブレイクの感染源は特定されていないが、ケータリング業者の従業員によって食品がウイルスに汚染された可能性が高いとみられている。今回のアウトブレイクでは、食品営業管理者のためのガイドラインの重要性が強調されている。これによると、下痢や嘔吐を呈している食品施設の従事者は管理者に報告し、食品を取り扱ってはならないことになっている。また、24時間以内の症状が下痢か嘔吐のいずれか一つで発熱がない場合、仕事に復帰できる。症状が続いている場合は、嘔吐、軟便のいずれかが48時間みられなければ復帰できる。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/051020.asp#7
2004-17	1	オランダ	Eurosurveillance	12 August 2004 国際スカウトジャンボリーでノロウイルス感染の集団発生:国際的警告(オランダ) July-August 2004: international alert オランダで開催された国際スカウトサマーキャンプで、参加者4,500人のうち約250人(スカウトと職員)がノロウイルスに感染し、47人が入院した。標準RT-PCR法により嘔吐物にノロウイルスが確認され、便検体は検査中である。キャンプ開始日の7月26日以前に発症していた2人が初発患者と考えられるが、まだ検査結果が出ていない。NovV GGL4("Malta"), NoV GGL5("Butlins")およびNoV GGL4("Grimsby")が確認されている。今回のアウトブレイクは感染患者からの水系感染が疑われ、水泳を行った湖水の検査を行っている。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040812.asp#1
2006-1	2	オランダ	Rijksinstituut voor Volksgezondheid en Milieu	オランダの食品由来感染症、2004年 オランダの1年間の食品由来感染症と食中毒の患者は、約300,000人から750,000人である。患者の一部は、感染症の電子通知システムを通じて報告されており、2004年には、アウトブレイク48件を含む、87件の感染症が報告された。食品由来ではサルモネラとノロウイルスが患者の大部分を占め、それぞれ193人と192人で、ついでカンピロバクターが32名であった。一方、食品由来が推測される他の病原体による患者は、赤痢346人、ブルセラ病8人、チフス31人、コレラ1人、A型肝炎447人、パラチフスA型21人とB型17人であった。2004年、食品由来感染と食中毒の患者数は減少したのに対し、赤痢等の原因による報告患者数は横ばいかまたは増加した。このような患者のうち、汚染された食品または水によるものは0〜38%であった。赤痢、A型肝炎、チフスおよびコレラなど食品由来疾患の報告は、夏季に最も多い。赤痢等は外国での感染が重要部分を占め、例えばA型肝炎では39%、チフスとコレラでは100%が外国での感染であった。アウトブレイクの48%が、レストラン等の商業施設で発生した。 http://www.rivm.nl/infectieziektenbulletin/bul1610/art_voedselgerel.html
2004-24	1	カナダ	Promed	ウイルス性胃腸疾患 11月20日、アルバータ州カルガリー市の病院から患者6人と職員7人の胃腸疾患患者が報告され、原因はノロウイルスである可能性が高いとされている。カルガリー市のノロウイルス様疾患アウトブレイクとしては今年16件目と例年より多く、一人一人感染によりさらに増えることが懸念されている。市内では11月18日に別の病院でも発生しており、2週間前にはホームレス保護施設で100人以上の患者が出た。州内の他の市でも増加している。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:10969905502598446543::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27266
2004-26	1	カナダ	Promed	ノロウイルスの疑い(カナダ) 先週、バンクーバーの病院で少なくとも12人の患者と職員15人以上がノロウイルス感染の症状を呈し、週末にはさらに患者2人と職員2人が増えて合計31人となった。バンクーバーの別の小児病院でも、11月下旬から患者13人と職員30人がノロウイルス様症状を呈した。小児は2人を除いて回復した。
2005-1	1	カナダ	Promed	ノロウイルス(カナダ) Saskatchewan州の州都Reginaのリハビリテーションセンターで多数のウイルス性胃腸疾患患者が出て、6棟が閉鎖された。患者1人のサンプルがノロウイルス陽性であった。患者数は不明であるが、状況はよくなっている。
2005-2	1	カナダ	Promed	ノロウイルス(カナダ) アルバータ州中央部の宿泊施設とナースিংホームでノロウイルス感染のアウトブレイクがあった。今年は多くの州でノロウイルス感染患者が多く、2004年12月、保護地域の12施設からノロウイルス感染のアウトブレイクが報告された。現在も7件のアウトブレイクがある。2002年後期と2003年初期にも大規模なアウトブレイクがあった。
2005-2	1	カナダ	Promed	ノロウイルス(カナダ) 1月4日、オンタリオ州の病院からノロウイルス感染のアウトブレイクが報告された。ラボでの確認はされていないが、週末より患者6人と職員8人が症状を呈している。その前には、1月第1週に別の病院でノロウイルス感染のアウトブレイクが確認され、患者12人と職員8人が感染した。
2005-3	2	カナダ	Promed	ノロウイルス感染増加(カナダ) カナダでは、ノロウイルス感染患者が7年間で15倍になった。2004年以来、ナースিংホーム、病院、デイケアセンターのほか、カリブ海クルーズ船やドミニカ共和国での発生が報告されている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:9854050615169090327::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27926
2004-26	1	スイス	Promed	ノロウイルス(スイス) 過去3週間に6州で急性胃腸疾患患者が増えている。Winterthurとバーゼル2の病院で、それぞれ180人と150人の患者が報告された。
2004-4	1	船上	Promed	クルーズ船上で300人が胃腸疾患 メキシコに向かうクルーズ船上で300人以上が胃腸疾患を発症した。乗客1,576人中297人、乗組員689人中19人が罹患し、原因はノロウイルスとみられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:3275870985016262548::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24501
2005-3	1	チリ	Promed	ノロウイルスの疑い(チリ) 1月14日、Puerto Montt地域でNorwegian Crownのクルーズ船上で200人以上が胃腸疾患を発症した。現在調査中であり、ノロウイルス感染が疑われている。

2005-14	1	デンマーク	Eurosurveillance	輸入冷凍ラズベリーによるノロウイルス感染のアウトブレイク2件、デンマーク、2005年5月～6月 Northern Jutlandの2つの病院で、5月21～22日に患者101人と職員101人、その後4日間にさらに患者43人と職員52人、親戚4人が嘔吐と下痢を起こした。職員と入院患者の合計120人を対象に症例対照研究が行われた。発症した職員は全員、5月20日に勤務に就いていた(オッズ比: 15.95% 信頼区間(CI) 3.4～71)。冷凍ラズベリー入りフロマージュ・ブラン(フレッシュチーズ)及びラズベリー入りの他のデザートと疾患との間に関連性が認められた(それぞれ、オッズ比:無限大, lower CI 3.4, オッズ比: 6.2; 95% CI: 1.6 ～26)。検便検体からノロウイルス感染が確認された。 一方、Sjællandとコペンハーゲン周辺地域では、6月3日から高齢者が胃腸感染症を発症した。患者は共通のケイタリング業者の食事を摂取しており、6月1～3日に1,100人に供されたラズベリーのデザートが感染源である可能性が高かった。冷凍ラズベリーは、上記の病院でのラズベリーと同一の輸入業者から購入されたものであった。6月23日現在、患者は少なくとも289人である。Sjællandからの複数の検便検体がノロウイルス陽性であった。 これは、冷凍ラズベリーへのデザートによるノロウイルス感染のアウトブレイクの第1報である。二次感染も含めた全体範囲の調査、ラズベリーの微生物分析、検便検体の分析、ノロウイルスの遺伝子型の分析が現在行われており、遺伝子型は複数であることが示唆されている。感染源は早い時期にわかったが、冷凍ラズベリーの回収が遅れたためSjællandでもアウトブレイクが起こる結果となった。Sjællandでの発生後、回収が強化されている。ラズベリーはポーランドからの輸入品で、普通の小売店には配送されていない。他国への輸出は不明である。アウトブレイクはFood-borne viruses in Europe network (FBVE, http://www.eurofoodborneviruses.co.uk)に報告され、European Early Warning and Response System (EWRS)とRapid Alert System for Food and Feed (RASFF, http://europa.eu.int/comm/food/food/rapidalert/index_en.htm)を通じて国際的警告が発せられた。 これまでも、ラズベリーによるノロウイルス感染のアウトブレイクの報告があり、最近では2005年3月に仏の学校からの報告があった。しかし、今回のデンマークの報告は、http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050623.asp#1
2005-20	2	デンマーク	Eurosurveillance	輸入冷凍ラズベリーによるノロウイルスのアウトブレイク、デンマーク、2005年 2005年6月から9月、ポーランドから輸入した冷凍ラズベリーによるノロウイルス感染のアウトブレイクが6件発生し、合計1,000人以上が感染した。このうち2件は以前に報告されている。いずれのアウトブレイクでも、冷凍ラズベリーを使用した加熱されない料理が関連しており、最初の5件では、同じバッチの冷凍ラズベリーが使われていた。 2005年5月末にAalborgの病院で起こったアウトブレイクで、感染源として初めて冷凍ラズベリーが特定され、該当するバッチが回収された。回収が遅れたため、6月に給食宅配サービスによって高齢者の間で2件目のアウトブレイクが起こった。約400人(年齢中央値85歳、範囲41～102歳)が感染し、少なくとも23人が入院した。回収が効果的に行われなかったために、8月に2件のアウトブレイクが起こった。このため、冷凍ラズベリーについて警告が出され、担当機関が回収手順について協議した。 9月の最後のアウトブレイクは、異なる輸入業者と製造業者によるラズベリーが感染源であった。会社の食堂で提供されたラズベリーを使用した料理の摂食が疾患と関連しており(リスク比12.2, 95% CI 3.2～4.7)、発症率は82%であった。 現在、冷凍ラズベリーのサンプルをノロウイルスの検査中である。5件の患者の検便検体はいずれもノロウイルス陽性であったが、遺伝子グループはGGII.4, GG IIb およびGG IIaと異なっていた。細菌検査はすべて陰性であった。輸入されたラズベリーは、ポーランドの複数の異なる農場で栽培されており、ポーランドの食品担当機関が調査を依頼された。 以上の情報の詳細はヨーロッパ早期警告・対応システム(EWRS)、食品及び飼料に関する早期警戒システム(RASFF) http://europa.eu.int/comm/food/food/rapidalert/index_en.htm およびFoodborne Viruses in Europe network (FBVE) http://www.eurofoodborneviruses.co.uk に報告された。ポーランド産ラズベリーはヨーロッパ各国に輸出されているため、冷凍ラズベリーに関連性のあるノロウイルス感染が起こった場合は、情報の提供が望まれている。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050922.asp#2
2005-1	1	ニュージーランド	Promed	ノロウイルス(ニュージーランド) (12月24日)クライストチャーチ市の病院でノロウイルス感染のアウトブレイクが起こり、3病棟が閉鎖された。 (12月28日)1病棟の閉鎖が解除され、1病棟では新たな患者がなく、状況は改善している。
2005-26	1	ニュージーランド	Public Health Surveillance, New Zealand	ノロウイルス感染アウトブレイク 2005年5月17日、高齢者施設から急性胃腸疾患のアウトブレイクが報告された。初発患者は、5月6日に近隣から看護のために施設に引越した者と考えられた。居住者40人のうち22人とスタッフ7人が5月6～16日に発症した。主な症状は下痢と嘔吐で(45%)、下痢のみが36%、嘔吐のみが13%、腹痛と悪心のみが6%であった。症状持続期間の中央値は2日間、範囲は1～6日間であった。潜伏期間と症状からノロウイルス感染が疑われ、6人の検便検体のうち5人がノロウイルス陽性であった。 次のような措置が行われた。 - 患者の詳細な記録 - 少なくとも24時間無症状になるまで患者を隔離すること - アルコール消毒剤を用いる手洗いの励行、部屋の消毒 - 医療従事者の手袋やマスクなど防護用品の使用強化 - 発症した医療従事者が少なくとも24時間無症状になるまで勤務につかないこと - 施設への訪問者に、訪問を控えて予防方法の指示に従うよう助言すること http://www.surv.esr.cri.nz/PDF_surveillance/NZPHSR/2005/NZPHSR2005Dec.pdf
2005-10	1	フランス	Eurosurveillance	冷凍ラズベリーによるノロウイルス感染のアウトブレイク、フランス、2005年3月 2005年3月23日、フランス中央部Haute-Loireにある中学校で胃腸疾患のアウトブレイクが起こった。教師30人、生徒334人のうち298人が学校の食堂で昼食をとり、調査を行なった教師と生徒270人のうち、75人(28%)が患者と定義された。75人のうち、69人(92%)が腹痛、59人(79%)が嘔吐、53人(71%)が悪心、38人(51%)が下痢および15人(20%)が発熱の症状を呈した。入院した者はおらず、全員が回復した。症状が続いていた期間は1日未満から2日間、潜伏期間は12時間から56時間で、平均36時間、中央値37時間であった。 3月21日の昼食時に食されたフロマージュ・ブラン(チーズの1種)ラズベリー添えに有意な関連性が認められ(相対リスク(PR) 3.3; 95% 信頼区間(CI) 1.5～7.5)、患者74人(93%)のうち69人がこれを摂取していた。フロマージュ・ブランのみでは関連性がみられなかった(PR 1.8; 95% CI 0.4～9.0)。生徒の6検便検体のうち5検体がノロウイルス遺伝子グループ伝伝子型5 (フランスでこれまで確認されたことのない伝伝子型Musgrove virus)陽性であった。食品サンプルの微生物培養は、E. coli, Staphylococcus aureus, Clostridium属菌, Bacillus cereus, Salmonella属菌すべて陰性であった。未開封のラズベリーは、1度目の分析ではノロウイルス陰性で、さらに分析が行なわれている。 4月25日、ヨーロッパ早期警告システム(European Early Warning and Response System, EWRS)を通じて警告が発せられた。最近のフランスでは、ラズベリーによるアウトブレイクはなかった。ウイルスは、冷凍のベリーの中で長期間生存することができ、ベリーによるA型肝炎が報告されている。ラズベリーによるノロウイルス感染のアウトブレイクは、1997年のカナダ、2002年と2003年のフィンランドで記録されている。 調査では、ラズベリーを感染源とするノロウイルス感染である可能性が高いことが示されている。アウトブレイク前に食堂のスタッフの疾患がみられないこと、他の食品と疾患との間に関連性がないことから、ラズベリーは調理前に汚染されたと考えられる。しかし、調理中に汚染されたという仮説も否定できない。ラズベリーは輸入品であり、冷凍や包装前に汚染されていたとすれば、他国でもアウトブレイクが起こる可能性がある。ラズベリーのノロウイルス汚染が確認されるか、他からもアウトブレイクが起こる可能性がある。アウトブレイクは終了したと見られている。 http://europa.eu.int/comm/food/food/rapidalert/index_en.htmを通じて供給業者や原産国が明らかにされる。ラズベリーによる他のアウトブレイクに関する情報は http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050428.asp#1
2005-1	1	米国	Promed	ノロウイルス(米国) 2004年12月21日、ニューメキシコ州のレストランで50人以上のウイルス性胃腸疾患患者が出たと発表された。ノロウイルス感染の可能性があるとされ、まだ調査中であるが新たな患者発生がないことから、アウトブレイクは終了したと見られている。
2005-1	1	米国	Promed	ノロウイルス(米国) 12月7日、バーモント州の高齢者施設でノロウイルス感染のアウトブレイクが起こり、職員208人中約20人と居住者少なくとも40人が感染した。このため、同施設は最低1週間の閉鎖にはいった。
2005-1	1	米国	Promed	ノロウイルス(米国) 12月10日、ミシガン州Troyのナースিংホームから、不明の疾患のアウトブレイクにより1人が死亡、数人が入院したと報告された。患者15人からの3サンプルにノロウイルスが確認されたが、死亡者の原因はまだ明らかになっていない。
2005-19	1	米国	Promed	ハリケーン後のノロウイルス感染(米国) 11 September 2005 避難所で約700名が下痢や嘔吐で治療を受け、40名はまだ隔離されている。赤痢やコレラの噂があったが、ノロウイルス感染と診断された。患者数は減少しており、症状は比較的軽いが、拡散防止のため隔離が行われた。他の避難所からも集団下痢患者が報告されているが、ノロウイルス感染は広範囲には広がっていない模様である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:903498129182653628::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,30368
2005-2	1	米国	Promed	ノロウイルス(米国) 5日間の航海後、1月8日にフロリダに帰港したカリブ海クルーズ船で、乗客108人と乗組員8人がノロウイルスに感染した。乗船2日前に症状の出ている1人の乗客から広がったものであった。米国では、ノーウォーク様ウイルスの感染患者が年間2,300万人出しており、最近クルーズ船での発生が増えている。2004年9月には、アラバマ州のクルーズ船で84人がノロウイルスに感染した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:13576819877762263372::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,27671

2005-26	1	米国	Promed	ノロウイルス(米国) 2005年11月11日、ネブラスカ州オマハの小学校で児童45人が胃腸疾患を発症し、学校が閉鎖された。この秋4度目のアウトブレイクである。ノロウイルス感染が疑われているが、確認検査が必要である。Creighton大学でも学生40人が嘔吐、下痢、腹痛を訴え、ノロウイルス感染が疑われている。10月にDoubletreeホテルで3～4日間に少なくとも300人が発症し、9月にはElkhornの小学校で児童80人が食品によりノロウイルスに感染した。
2005-3	1	米国	Promed	ノロウイルスの疑い(米国) クルーズ船上で204人がウイルス性胃腸疾患を発症し、船は1月28日、フロリダに帰港した。サンプルがCDCに送られ、検査される。
2005-3	1	米国	Promed	ノロウイルスの疑い(米国) オレゴン州の刑務所で1月25日から少なくとも128人が胃腸疾患を発症し、ノロウイルス感染が疑われている。2004年5月にもMalheur郡の矯正施設でウイルス性胃腸疾患患者33人が出た。
2005-3	1	米国	Promed	ノロウイルス(米国) 1月8日にFort Lauderdaleからカリブ海クルーズに出港した船で、94人が胃腸疾患を発症した。調査により、最初の患者は乗船前にすでに体調が異常であったことがわかった。Fort Lauderdaleからクルーズに出港した船で、2週間以内にアウトブレイクが2件起こったことになる。1件目の患者は116人であった。
2005-3	1	米国	Promed	ノロウイルスの疑い(米国) 2004年12月20～25日、ミズーリ州Moberly地域で初めてノロウイルス感染が疑われるアウトブレイクがあった。地元のレストランで広がったと考えられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12243211868168065811::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27844
2005-4	1	米国	Promed	ノロウイルスの疑い(米国) インディアナ州デラウェア郡から、ノロウイルス感染のアウトブレイクが報告された。症状に似ている部分があるため、当初はインフルエンザと考えられていた。
2005-6	1	米国	Promed	ノロウイルスの疑い(米国) カリブ海のクルーズ船で胃腸疾患患者約100人が出て、ノロウイルス感染が疑われている。
2005-3	1	ラトビア	Promed	ノロウイルスの疑い(ラトビア) 先週末、ラトビア陸軍で38人が食中毒症状を呈し、調査が行われている。ラトビア軍では、2001年1月に100人以上が赤痢を、2003年1月に72人が腸内感染症を発症している。

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(A型肝炎)

年次一号	※番号	国	出典	詳細
2003-13	1	アメリカ	CDC	コンサート参加者に見られたA型肝炎の集団発生 2003年7月～8月2日までの間に、野外コンサートに参加した若者25人がA型肝炎に罹患。患者はアリゾナ、カリフォルニアなど9州に広がり、平均年齢23才(17-44才)。コンサートは場所を移動して開かれ、1,200 から82,000人の観客が集まる。直接の感染源は調査中であるが、非衛生的な食品の提供や密度の高い会場での人一人感染が疑われている。 http://www.cdc.gov/mmwr/preview/mmwrhtml/mm5235a5.htm
2003-20	1	アメリカ	FsNet	A型肝炎発生 December 13, 2003 Associated Press ペンシルバニア州で、複数の高校生がA型肝炎ウイルス検査で陽性となり、先月に集団発生したA型肝炎患者から感染したと考えられている。 http://131.104.232.9/fsnet/2003/12-2003/fsnet_dec_14.htm#story0
2004-5	1	アメリカ	FsNet	テキサス州でA型肝炎 February 23, 2004 Food Safety Update #34 米国のテキサス州Cameron Countyで20人以上のA型肝炎患者が報告され、A型肝炎に関する注意が出された。2月最初の2週間にRudy's Country Store and Barbecueで食事をした客が受診するようアドバイスされている。 http://131.104.232.9/fsnet/2004/2-2004/fsnet_feb_23.htm#story2
2004-7	1	アルゼンチン	Promed	A型肝炎(アルゼンチン) March 21, 2004 アルゼンチン、ブエノスアイレスでA型肝炎患者160人以上(うち1人は重症)が報告され、緊急衛生プログラムとワクチン接種が実施されている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:450179591085843891::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24808
2004-12	2	イタリア	Eurosurveillance	2004年1月～5月、南イタリアCampania州におけるA型肝炎の市中感染 イタリア南部のCampania州はA型肝炎の風土病地域であり、年間の発病率はイタリアの他の地域の2倍である。時期的には、夏、第一四半期、クリスマス後に多い。南東のPugliaでは、1996-1997年に大きな流行が起きた。Campania州で2004年3月末までのHAV患者数が前年同時期の数を大幅に超えたため調査を行ったところ、2004年1月1日～5月21日までのHAV確定患者は615人であった。このうち、58%が男性、年齢中央値は20歳(範囲:1-76歳)、11～20歳が30%、21～30歳が34%、5歳未満が9%であった。患者の60%以上がCampania 16地区のうち2地区(それぞれ112人と265人)に集中しており、そのほとんどはナポリ南海岸の人口密集地域の住民である。この地区Aでは患者の約60%が男性で、年齢中央値は16歳(範囲:1-52歳)である。この地域の患者を他の地域と比較すると、性差に有意差はなかった(58.3%に対し57.4%, P=0.7)。しかし、年齢中央値は有意に低く(23歳に対し16歳, P<0.001)、感受性や伝播形式の違いが考えられる。開始日による患者分布は、他の地域と変わらなかった。貝類の摂取が多いことがわかり、感染源の候補となっている。流行曲線には4-5週と10-11週という2つのピークがあり、最初に感染が起こった大晦日周辺後、人一人感染により感染が拡散したと考えられる。平均潜伏期間は28-30日間であるため、ほとんどの患者の曝露期間は1月初旬2月中旬と考えられる。以上の仮説を確認すべく、ケースコントロールスタディを実施中である。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040603.asp#1
2003-8	1	ウクライナ	FsNet	ウクライナでA型肝炎流行 Hepatitis A, Ukraine (Luhansk region); water borne June 24, 2003 A ProMED-mail post 61人のこどもを含む285人が入院。感染源は飲料水への汚水混入。 http://131.104.232.9/fsnet/2003/6-2003/fsnet_june_25-2.htm
2004-19	1	カザフスタン	Promed	肝炎(カザフスタン) September 13, 2004 中央部Karaganda 州Abay市で、111人がウイルス性肝炎と診断され入院した。A型またはE型と考えられているが、この地域でよく確認されることからA型である可能性が高い。防疫手段がとられており、飲料水の品質監視が行われているが、状況はいまだ深刻である。
2004-11	1	カナダ	FsNet	カナダ北部でA型肝炎 May 12, 2004 Cariboo Press カナダ北部でA型肝炎患者が増加している。患者は複数の地域に散在しており、現在のところ関連性が見つかっていない。 http://131.104.74.73:96/fsnet/2004/5-2004/fsnet_may_13-2.htm#story7
2004-22	1	カナダ	Promed	A型肝炎アウトブレイクの可能性(カナダ) October 14, 2004 10月12日、レストランの女性職員がA型肝炎と診断された。この女性は調理担当ではないが、生の果物や野菜を取り扱い、飲み物のサービスを行っていたため、9月15日～10月5日に食事をした約900人にA型肝炎感染の可能性があると考えられた。ワインフェスティバル開催中で外国からの客も多かったため、国内外に警告が発せられている。現在のところ、他に患者の報告はなく、感染拡散のリスクは低いとされている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5028224185500867390::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,26934
2004-15	2	韓国	Promed	A型肝炎(韓国) July 13, 2004 韓国では6月のA型肝炎患者が76人で、月間患者数として2001年1月以来最多となった。これまでの月間患者数で多かったのは、2003年3月の53人、2002年6月の50人である。年間患者数は、2001年が105人、2002年が319人、2003年が311人である。6月の患者の約80%が特定のレストランで食事をしており、レストランの地下水が原因である可能性が高いと考えられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:4579503474880420233::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26003
2004-21	2	キルギスタン カザフスタン	Promed	A型肝炎急増(キルギスタン、カザフスタン) September 29, 2004 南部で急性肝炎患者が急増している。第二の都市Osh市のみで9月に約100人が入院した。2004年の肝炎発生率は2003年を50%上回っている。患者数は田園地域で増加しており、連日1～2人が入院している。Osh市では、過去8か月に約1,500人が肝炎を発症、このうち約1,200人が14歳未満であった。また、カザフスタンでは、中央部Karaganda州で9月にウイルス性肝炎患者約300人(うち250人が小児)が報告された。原因は古い給水設備の破損による飲料水汚染である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:13567307652544334702::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26826
2004-18	3	その他	Eurosurveillance	エジプト旅行によるA型肝炎 国際的警告 ドイツで、エジプト帰りの旅行者の間にA型肝炎が発生している。患者は紅海ほとりの特定のホテルに滞在していた。他にロシア、イタリア、フランス、英国、オーストラリア、スイス、デンマーク、スウェーデンの旅行者もいたため、ヨーロッパ早期警告システムを通じて警告が発せられた。8月26日までに、ドイツ人患者100人と他国の16人が報告されている。感染源は調査中である。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040826.asp#1
2003-18	1	中国	FsNet	A型肝炎— 中国(広東) November 3, 2003 A ProMED-mail post 中国、広東省でA型肝炎が発生した。地方政府の措置が有効し、郊外までは広がっていない。現在、29人がA型肝炎と診断され(うち4人は退院、17人が入院中、8人が回復中)、31人に感染の疑いがある。若年層が23人と感染率がやや高い。原因として、"Qingwa Luan"("frog egg")という飲料が疑われている。 http://131.104.232.9/fsnet/2003/11-2003/fsnet_nov_4.htm#story4

2004-19	1	ドイツ	Eurosurveillance	エジプト旅行によるA型肝炎 最新情報 9月8日現在、エジプト旅行から帰国したドイツ人のA型肝炎患者219人が報告され、このうち203人は検査により確認された。紅海に面した同じホテルに滞在した他国の旅行者からも患者49人が報告されている。最新の発症日は9月1日、患者の最終帰国日は8月15日であり、8月15日以降には新たな感染はないものと考えられる。A型肝炎の潜伏期間は15日～50日間と比較的長く、患者は増える可能性があるため、A型肝炎が疑われる患者は旅行歴を記録する必要がある。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040909.asp#2
2004-17	2	ベルギー	Eurosurveillance	ベルギー、フランドル地方でA型肝炎アウトブレイク 2004年7月、フランドル地方でA型肝炎患者が急増した。7月7日～8月10日に、Vlaams-Brabant州で80人、アントワープ州で172人の患者が報告された。一方、2004年1月～6月はVlaams-Brabant州で12人、アントワープ州で32人であった。患者のほとんどは若年の成人である。詳細は調査中であるが、ある食肉加工施設における食品取扱者が感染源として疑われている。ベルギー人のA型肝炎抗体の血清保有率は最近減少しており、1994年は51.7%である。1980～85年のA型肝炎発生率は100/100,000、1995～2000年は10～30/100,000である。この変化により感受性人口が増加したと考えられる。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2004/040812.asp#3
2004-18	1	ベルギー	FsNet	A型肝炎患者の調査、食肉加工施設からか(ベルギー) August 17, 2004 Associated Press 7月以来北部のフランドル地方でA型肝炎患者約300人が発生している件で、食肉加工施設に勤める1人の感染患者がアウトブレイクの発端として疑われているが、今のところ関連性は証明できない。 http://131.104.74.73:96/fsnet/2004/8-2004/fsnet_aug_18.htm#story2
2004-21	1	ロシア	Promed	A型肝炎 (ロシア) October 9, 2004 Buryatia共和国で、A型肝炎患者が1日で14人増え、合計100人に達した。発生の中心であるBarguzinskiy地域に緊急事態宣言が発せられ、学校、幼稚園などがすべて閉鎖された。特別に対応施設を開設したが、拡散は治まっていなかった。小児54人が入院中であるという情報も出ている。感染源は今のところ不明である。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:11179844094817814891::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,26896
2004-23	1	ロシア	Promed	A型肝炎 (ロシア) November 2, 2004 Kaliningrad地域で、A型肝炎で95人(うち38人が小児)がA型肝炎で入院した。学校児童や保育園の小児が多いため、ワクチン接種を始め、これまで患者と接触した者292人にワクチンが接種された。他の防疫措置も採られているが、さらにワクチンを必要としている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1371128442184062510::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27087
2004-23	1	ロシア	Promed	A型肝炎 (ロシア) October 31, 2004 Pskovで新たなA型肝炎患者3人が入院し、小児5人が退院した。患者数は合計130人(うち52人が小児)になり、緊急事態が宣言された。予備調査では、運河、泉、井戸が感染源と考えられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:17865003052108635207::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,27060
2004-6	1	ロシア	Promed	A型肝炎 (ロシア) March 12, 2004 Karachaevo-Cherkessia自治共和国で2003年12月にA型肝炎患者が報告され、その後患者は180人(小児142人を含む)に増えた。洪水によって汚染された水が原因であったが、停電によって状況がさらに悪化した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:11571749353144482720::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,24699
2005-7	1	インド	Promed	A型およびE型肝炎 (インド) 28 March 2005 3月第4週、中南部のハイデラバード市で100人以上がA型またはE型肝炎と診断され、アウトブレイクが宣言された。住民への指導、下水道の修理が進められている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15720690821705942749::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,28498
2005-13	1	エジプト	Eurosurveillance Promed	ホテルのオレンジジュースによるA型肝炎のアウトブレイク、2004年エジプト 2004年8月と9月、エジプト紅海に面したリゾート地であるHurghadaのあるホテルの滞在客にA型肝炎のアウトブレイクがあった。合計患者数は351人で、ドイツ人患者が一次感染271人と二次感染7人、ヨーロッパの他8カ国の患者が一次感染60人と二次感染13人であった。 ドイツ人患者は、年齢範囲2～67歳(中央値34歳)、54%が男性、死亡者はいなかった。2人が旅行前にA型肝炎ウイルス(HAV)のワクチン接種を受けていた。患者は6月9日から8月8日の間に滞在しており、滞在期間は6日間から21日間、感染が起った期間は6月24日から7月23日で、この間に感染源が存在したと考えられている。感染した者の52%が同一のホテルにその期間1日以上滞在していた。発症日は7月10日から9月8日、滞在期間の中央日から症状開始までの期間は7日間から62日間であった(中央値30日)。 他国の内訳は、オーストリア18人、スウェーデン10人、デンマーク9人、オランダ9人、ベルギー6人、英国5人、イタリア2人およびスイス1人であった。二次感染によるアウトブレイクがオーストリアで1件、当該ホテルから帰国後、食品調理施設に復帰した従事者により発生し、患者数は13人であった。 一次患者69人と対照36人を対象に症例対照研究を行ったところ、ホテルの朝食ビュッフェで提供されていたオレンジジュースの摂取に有意差がみられた(患者82%、対照64%)。A型肝炎を発症した患者は対照群の2.6倍ジュースを飲んで(95% CI 1.1～6.8)。またジュースを飲んだ日数とOR比の間には統計学的に有意な用量反応関係が認められた。ドイツ人患者13人から分離したHAVは同一で、HAV遺伝子型1Bであった。ホテルの従業員にHAV-IgM陽性者がいなかったことから、感染従事者が感染源とは考えられなかった。エジプト厚生省はホテルに食品を供給している業者に集中して調査を行い、症例対照研究の結果から当該ジュースの供給者が疑いをもたれた。ジュースの製造工場では衛生上の問題点が確認され、ジュースは加熱処理が行われていなかった。 以上から感染源は朝食ビュッフェ時のジュースであると考えられた。フルーツジュースが食品由来疾患の感染源となることは多いが、柑橘系ジュースがA型肝炎の感染源となることは稀である。ドイツ人旅行者の大部分が、A型肝炎のワクチン接種を受けていなかった。旅行前の適切な助言が重要と考えられ、旅行代理店は、予防接種など旅行前の助言をパンフレットに記載するか、または適切な機関で助言を受けるよう勧めるべきである。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/050609.asp#2 A型肝炎 (ロシア) 続報 Hepatitis A - Russia (Tver) (07) 22 June 2005 Tver地域のA型肝炎患者が小児182人を含む662人に達した。患者との接触によりA型肝炎が疑われている28人の診断はまだ確認されていない。アウトブレイクは終末モスクワでは、A型肝炎のアウトブレイクはないが、2005年1～5月の肝炎患者は小児164人を含む1,130人で、2004年同時期の1.5倍である。小児の肝炎発症率はモスクワでは、2005年4月20日～6月14日の間に、小児16人を含む176人がA型肝炎を発症し、そのうち成人157人と小児15人が入院した。ロシアの首都でのアウトブレイク http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:8212984447210854729::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29392
2006-1	2	オランダ	Infectieziekten Bulletin	オランダの食品由来感染症、2004年 オランダの1年間の食品由来感染症と食中毒の患者は、約300,000人から750,000人である。患者の一部は、感染症の電子通知システムを通じて報告されており、2004年には、アウトブレイク48件を含む、87件の感染症が報告された。食品由来ではサルモネラとノロウイルスが患者の大部分を占め、それぞれ193人と192人で、ついでカンピロバクターが32名であった。一方、食品由来が推測される他の病原体による患者は、赤痢346人、ブルセラ病8人、チフス31人、コレラ1人、A型肝炎447人、バラチフスA型21人とB型17人であった。2004年、食品由来感染と食中毒の患者数は減少したのに対し、赤痢等の原因による報告患者数は横ばいまたは増加した。このような患者のうち、汚染された食品または水によるものは0～38%であった。赤痢、A型肝炎、チフスおよびコレラなど食品由来疾患の報告は、夏季に最も多い。赤痢等は外国での感染が重要部分を占め、例えばA型肝炎では39%、チフスとコレラでは100%が外国での感染であった。アウトブレイクの48%が、レストラン等の商業施設で発生した。 http://www.rivm.nl/infectieziektenbulletin/bul1610/art_voedselgerel.html
2005-15	1	カナダ	Public Health Agency	A型肝炎: オンタリオ州 30 June 2005 2005年5月27日、Waterloo地域の保健所は、レストランの食品取扱者1人にA型肝炎陽性結果が出たという報告を受けた。レストランの客とメディア向けに設置されたポットラインには約1,300回の問い合わせがあり、700人がワクチン接種を受けた。その後A型肝炎患者12人が確認された。さらに食品関係の仕事をしている人々の監視を続けたところ、最初に患者が出たレストランで食事をした別のレストランの従業員が陽性となった。この2件目のレストランの従業員全員にワクチン接種を行ったが、従業員は食事の準備に関与していなかったため、客にはワクチンは接種されなかった。保健所は、Waterloo地域の食品関連施設2,200件に注意書を送付した。 http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2605_e.html
2005-20	1	カナダ	Public Health Agency	A型肝炎: アラバマ September 23, 2005 9月初めから、A型肝炎患者13人が報告され、患者のほとんどが生カキを摂食後に発症した。調査を受けた11人のうち10人は発症前2～6週間に生カキを摂食していた。汚染した生カキは、少なくとも5件のレストランで出されたと考えられ、調査中である。 http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb3805_e.html

2005-12	1	タイ	Promed	A型肝炎(タイ) 25 May 2005 4月7日から、タイ北部のLampang県とChiang Rai県でA型肝炎のアウトブレイクがあり、患者906人が報告された。現在も1日当たり10～50人の患者が出ているが、重症患者はいない。Chiang Rai県の工場が井戸水で作った氷から大腸菌が検出され、工場には厳しい防止措置が採られた。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15136530485456480885::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29056
2005-25	1	デンマーク	Eurosurveillance	トルコ旅行から帰国したデンマーク人旅行グループのA型肝炎、2005年10月 2005年11月3日、IgM陽性のA型肝炎患者4人が報告された。患者は女性3人、男性1人で、29人のグループで9月17日～24日にトルコを旅行しており、10月12～20日に発症した。後ろ向きコホート研究を行ったところ、25人から質問票の回答が得られ、4人が患者の定義に一致した。29人はいずれもA型肝炎の既往がなく、9人がワクチン接種を受けており、この9人は発症していない。22人は旅行前のワクチン接種を勧められていなかった。 二つの重要なリスク因子は、アイスクリームとドライフルーツであった。アイスクリームは蓋のない大型のプラスチック容器に入れられてビュッフェで供され、水入り容器に入っていた共有のスプーンで各自が取り分けて喫食した。感染源としてアイスクリームとドライフルーツが示唆されたが、患者が少数であるため調査結果を解釈するには限界がある。発症日からは共通の感染源があり、ヒト-ヒト感染はないと考えられる。 患者からの1サンプルに見つかった遺伝子型1Bはデンマークでは多くは見られず、主にヨーロッパ以外からの由来である。同国ではトルコへの旅行者にA型ワクチン接種が推奨されており、今回のアウトブレイクはその重要性を示している。トルコから帰国する旅行者には注意が必要であり、トルコでは環境調査が行われている。 現在のところ、トルコから正式の返事はなく、新たな患者も出ていない。 http://www.eurosurveillance.org/ew/2005/051201.asp#2
2005-1	1	ロシア	Promed	A型肝炎(ロシア) December 31, 2004 Murmansk地域のApatit市で2カ月前からA型肝炎のアウトブレイクが起こっており、現在患者は130人であるが、患者数は日増しに増え続けており、また子供が多く感染している。感染源は水と考えられ、塩素消毒の改善策が採られているが、あまり効果があがっていない。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:7958108315323304398::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,27597
2005-13 2005-14	1	ロシア	Promed	A型肝炎(ロシア) 9 June 2005 モスクワの南480kmにあるTver地域Rzhev市周辺でA型肝炎のアウトブレイクがあり、Moskva川近辺の下水の浄化が急がれている。そのほか、ケイタリング業者などの管理も強化され、ケイタリングの従業者にはワクチンが接種される予定である。Tver地域のA型肝炎患者は増え続けており、小児75人を含む352人にのぼった。6月8日にはさらに67人が入院した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:4878903324127062821::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,29240 A型肝炎(ロシア)続報 Hepatitis A - Russia (Tver) (04) June 14, 2005 A型肝炎患者が減少し始め、6月13日現在の入院患者は34人、合計患者数は547人である。患者と接触のあった人々にワクチン接種が行われている。感染源は、醸造所で製造された飲料であると考えられている。この醸造所ではビールのほか、レモネードなどソフトドリンクも製造しており、患者の約85%がこの飲み物を摂取していた。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15623415304639828910::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,29297 A型肝炎(ロシア)続報 Hepatitis A - Russia (Tver) (05) 18 June 2005 6月18日、A型肝炎の患者数が642人(うち小児177人)に達した。患者と接触のあった3,000人以上(うち小児2,000人)にワクチン接種が行われ、流行は制御されてきている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:8357513298628120033::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,29357
2005-19	1	ロシア	Promed	肝炎(ロシア) 2 September 2005 Vologda地域Sheksna村で肝炎により33人が入院し、このうち14人は小児であった。2005年初めから、Sheksna村周辺から患者82人が報告され、過去15年間で最も多くなっている。専門家は、飲料水が感染源であるとしている。アウトブレイク後、14歳未満の小児400人を含む700人に検査が行われ、370人にワクチンが接種された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1451062162101532038::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,30273
2005-2	1	ロシア	Promed	A型肝炎(ロシア) January 14, 2005 Kaliningrad地域のSovetsk市で、2005年1月初め以来、成人と小児約30人がA型肝炎を発症した。ほとんどの患者が衛生に関する初歩的なルールを守っておらず、汚染された野菜や果物によって感染した。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15444760183952063961::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27725
2005-20 2005-21	1	ロシア	Promed	A型肝炎(ロシア) 21 September 2005 9月20日現在、Nizhny Novgorod からA型肝炎患者822人が出て、このうち150人が小児と10代であると報告された。9月20日、他に30人が入院した。患者の大部分はNizhny Novgorod市のSormovskiy地区の住民である。アウトブレイクが始まったのは9月5日で、医師らによると、原因は水道管の修理の遅れとされている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12096848544304702305::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,30455 A型肝炎続報(ロシア) Hepatitis A - Russia (Nizhny Novgorod) (03) 29 September 2005 Nizhny Novgorodで、9月5日からA型肝炎流行の状況が悪化し、1,034人が入院した。このうち小児が211人を占める。予備調査では、下水設備の不備が原因とみられ、20,900人以上がワクチン接種を受けた。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:2531566172275957046::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,30534
2005-22 2005-24	1	ロシア	Promed	A型肝炎(ロシア) 24 October 2005 Nizhny Novgorod市でこの数日間に42人がA型肝炎の疑いで入院した。9月5日以来、合計患者2,217人が報告され、このうち349人が14歳以下の小児である。同市では69,140人にワクチン接種を行なった。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1828769008482973546::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,30797 A型肝炎(ロシア) 18 November 2005 西部のNizhny Novgorod州で9月5日に始まったA型肝炎のアウトブレイクは、疑い例が2,897人となった。確認患者は2,395人で、このうち366人が小児である。合計73,652人がワクチン接種を、9,606人が免疫グロブリン投与を受けた。現在はヒト-ヒト感染となって拡散しているため、年末まで罹患率が上昇すると予測されている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1746459128792275433::NO:F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,31119

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(E型肝炎)

年次一号	※ 番号	国	出典	詳細
2004-12	1	イラク	Promed	水系感染によるE型肝炎(イラク) June 2, 2004 イラク東部のSadr市で、水系感染によるE型肝炎患者が100人以上報告された。未修理の下水設備、停電、気温の上昇などにより汚染水が蔓延したことが原因であり、コレラも発生している。当局は水の塩素化錠剤を配布し、5分間沸騰させるよう呼びかけている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:1147975085963830118::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,25597
2004-9	1	インド	Promed	E型肝炎 (インド) April 23, 2004 インド西部でここ3週間に少なくとも800人以上がE型肝炎に感染した。再発した患者が15人いたものの死亡者はなく、約30%がすでに回復している。原因は汚染水とみられている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:5629870596646713104::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,25194
2004-17	1	スーダン	WHO	E型肝炎(スーダン) Hepatitis E in Sudan 10 August 2004 2004年5月22日～7月30日、西部のGreater Darfurで急性黄疸症候群の患者625人、死者22人が報告された。ELISA法により23検体にHEVが確認された。West DarfurのMorni IDP キャンプでの予備的疫学調査では、患者149人、死者8人が確認され、うち70%が女性、平均年齢24歳であった。死亡者8人のうち6人が妊婦であった。E型肝炎の致死率は1～4%であるが、妊婦では20%にのぼる。原因は安全な水の不足と衛生不良である。 http://www.who.int/csr/don/2004_08_10/en/
2004-18	1	スーダン	WHO	スーダンのE型肝炎 最新情報 30 August 2004 5月22日～8月20日、Greater Darfur地域からE型肝炎の疑い2,431人、死亡者41人が報告され、一部地域ではPCRにより確認された。UNICEFなどによって飲料水が供給され、疫学調査も行われている。 http://www.who.int/csr/don/2004_08_30/en/
2004-18 2004-19	1	チャド	WHO	チャドのE型肝炎 最新情報2 6 September 2004 6月26日～9月2日、E型肝炎の疑いの患者1,077人、死亡者35人(致死率3.2%)がGoz Amer(患者973人、死亡者31人)とGoz Abal(患者63人、死亡者3人)の難民キャンプ、その近隣地域(Koukou, Am-Ouchar, Am-Bitin, Habile, Aradibe)から報告された。WHOの調査団が9月2日Koukouに到着した。調査団はリスク因子を特定し、水や衛生状況の改善など適切な制圧対策を勧める予定である。 http://www.who.int/csr/don/2004_09_06/en/
2004-13	1	中央アフリカ	Promed	E型肝炎 (中央アフリカ) June 19, 2004 6月17日、中央アフリカの首都バンギの3地域Gobongo, Kokoro-BoeingおよびNguitoでE型肝炎患者10人が報告された。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:12011900517887569589::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1010,25728
2005-23	2	イギリス	The Journal of Infectious Diseases	イングランドとウェールズにおけるE型肝炎感染調査-ブタから感染 4 November 2005 イングランドとウェールズのE型肝炎患者は、これまでアジア、アフリカおよび中米への旅行に起因するものが多かった。HPAの研究によると、1996年から2003年に報告された患者は186人で、このうち129人(69%)は外国旅行の旅先で感染したものであるが、19人(9%)は海外渡航歴がなかった。患者は55歳以上の(範囲は58～82歳)白人男性に多かった(76%)。 また外国旅行由来ではない患者は英国産のブタから感染したことも明らかになった。しかし、感染したブタとの関連性を解明するには、さらに詳細な研究が必要であり、ブタとヒトの両者の感染に共通な保有宿主がいる可能性もある。 イングランドとウェールズのブタによってE型肝炎に感染した患者は、海岸または河口地域に住む高齢の白人男性という、人口統計上明確な集団に属している。年齢と住環境の影響について、サンプル数の多い詳細な調査が必要である。 なお、詳細は以下の論文に掲載されている。 Non Travel-Associated Hepatitis E in England and Wales: Demographic, Clinical, and Molecular Epidemiological Characteristics The Journal of Infectious Diseases, Volume 192(2005), pages 1166 - 1172 http://www.hpa.org.uk/hpa/news/articles/press_releases/2005/051104_hepE.htm
2005-2	2	インド	Promed	E型肝炎(インド) January 7, 2005 冬季はウイルス感染の多い時期であるが、この冬は例年より状況が悪く、2004年のE型肝炎による死亡者は93人で、2003年の2倍である。南部の半島部でE型肝炎が流行している。E型肝炎の発生が増加して給水施設の検査を行ったが、汚染は認められず、感染源はまだ特定できていない。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:18230552414214881387::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,27645
2005-7	1	インド	Promed	E型肝炎(インド) 29 March 2005 中西部Maharashtra 州のBarametiの黄痘患者が348人、Alandiの患者が67人となり、5人にE型肝炎が確認された。感染源は汚染水である。下水管の修理が急がれており、氷の販売が禁止された。
2005-7	1	インド	Promed	A型およびE型肝炎(インド) 28 March 2005 3月第4週、中南部のハイデラバード市で100人以上がA型またはE型肝炎と診断され、アウトブレイクが宣言された。住民への指導、下水道の修理が進められている。 http://www.promedmail.org/pls/askus/f?p=2400:1001:15720690821705942749::NO::F2400_P1001_BACK_PAGE,F2400_P1001_PUB_MAIL_ID:1000,28498

食品安全情報(国立医薬品食品衛生研究所) 微生物関連情報まとめ(その他)

年次-号	※ 番号	国	出典	詳細
2005-16	2	オーストラ リア	CDC	オーストラリアにおける食品由来疾患の推定 住民電話調査データ等を用いて、オーストラリアにおける食品由来疾患の推定を行った。オーストラリアの胃腸疾患患者は、1年に1,720万人(95%信頼区間1,450～1,990万人)と推定され、そのうち32%(95%信頼区間24%～40%)が食品由来で、これは1人当たり0.3回(95%信頼区間0.2～0.4)もしくは1年に540万人(95%信頼区間400～690万人)の発症と推定された。原因はノロウイルス、腸管病原性大腸菌、カンピロバクター属、サルモネラ属菌がほとんどである。また、1年間の食品由来胃腸疾患による入院患者は15,000人(95%信頼区間11,000～18,000人)、死亡者は80人(95%信頼区間40～120人)と推定された。本研究により、世界的に食品由来疾患に関する公衆衛生上の懸念があること、国際的に食品由来疾患の推定値を比較するための標準法の必要性が強調された。 http://www.cdc.gov/ncidod/EID/vol11no08/04-1367.htm